

2013  
履修案内

---

横浜国立大学  
経営学部

---

# 目 次

平成25（2013）年度学年暦

1 履修登録	
(1) 概要	1
(2) 履修登録手順	1
(3) 履修登録単位数の上限について	2
(4) 履修登録の照合・確認に関する注意事項	2
2 昼間主コース	
(1) 卒業要件	5
① 卒業資格基準	
② 1単位当たりの授業時間	
③ 9月卒業について	
(2) 教養教育科目	6
① 履修方法	
② 教養コア科目必修科目表	
③ 教養コア科目一覧表	
④ 基礎演習科目	
⑤ 外国語科目	
⑥ 健康スポーツ科目	
⑦ 外国人留学生のための授業科目	
(3) 専門教育科目	17
① 履修方法	
② 授業科目一覧	
③ 専門教育科目新旧対照表	
④ 分割科目「I」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目	
(4) 履修・再履修上の注意	24
① 履修登録	
② 再履修登録	
③ 授業時間	
(5) 成績評価	25
① 評価方法	
② 成績評価	
③ 成績の確認	
(6) ゼミナール	27
(7) 卒業論文試験	27
(8) 夜間主コースとの相互履修	29

3	夜間主コース	
(1)	卒業要件	30
①	卒業資格基準	
②	1単位当たりの授業時間	
③	9月卒業について	
(2)	教養教育科目	30
①	必修科目	
②	教養科目一覧表	
③	外国語科目	
④	教養科目新旧対照表	
(3)	専門教育科目	32
①	履修方法	
②	授業科目一覧	
③	専門教育科目新旧対照表	
④	分割科目「I」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目	
(4)	履修上の注意	36
(5)	成績評価	36
(6)	ゼミナール	36
(7)	卒業論文試験	37
(8)	昼間主コースとの相互履修	37
4	経営学部以外の授業科目の履修	
(1)	経済学部開講科目	38
(2)	理工学部及び教育人間科学部開講科目	38
(3)	地域交流科目	39
(4)	国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目	39
(5)	横浜市内大学間単位互換制度	39
(6)	国際交流科目	39
(7)	交換留学制度	40
5	キャリア教育	
(1)	インターンシップ	41
(2)	副専攻プログラム ビジネス・プラクティス	42
6	教育職員免許状	
(1)	必要な資格と単位	43
(2)	履修方法	43
(3)	教育実習	44
(4)	免許状授与申請	44
7	学務関係諸手続き	
(1)	休学, 退学, 除籍	45

(2) 住所変更等の届け出	46
(3) 学生証の携帯	46
(4) 在学中の証明書の発行	46
(5) 卒業後の証明書の発行	47
(6) 社会科学系学務第二係窓口受付時間帯	47
(7) ゼミ室の使用	48
(8) 進路状況届の提出	48
(9) 住所・勤務等届の提出について	48
(10) 駐車許可証交付について	48
(11) 経営学部コンタクト教員制度（担任教員制度）	49
(12) 留学生支援制度	49
(13) その他	49
8 横浜国立大学経営学部規則	50
9 教員一覧	52
10 経営学部建物及び教室配置図	54

# 平成25 (2013) 年度学年歴授業日数調

## (春 学 期)

	日	月	火	水	木	金	土	摘 要	
4 月		1	2	3	4	5	6	春季休業期間 4/1 (月)～4/4 (木)	
		7	8	9	10	11	12	新入生・各学年オリエンテーション等	
		14	15	16	17	18	19	4/1 (月)～4/3 (水)	
		21	22	23	24	25	26	入学式 4/4 (木)	
		28	29	30				春学期開講 4/5 (金)	
								授業振替日 4/30 (火) は月曜日の授業を行う	
5 月				1	2	3	4		
		5	6	7	8	9	10	11	
		12	13	14	15	16	17	18	※補講週間(5/13(月)～5/17(金)の各日の第6限)
		19	20	21	22	23	24	25	清陵祭 5/25 (土)～5/26 (日)
		26	27	28	29	30	31		(5/25 (土) は準備含む)
6 月							1	開学記念日 6/1 (土)	
		2	3	4	5	6	7	8	
		9	10	11	12	13	14	15	
		16	17	18	19	20	21	22	※補講週間(6/17(月)～6/21(金)の各日の第6限)
		23	24	25	26	27	28	29	
		30							
7 月		1	2	3	4	5	6		
		7	8	9	10	11	12	13	※補講週間(7/8(月)～7/12(金)の各日の第6限)
		14	15	16	17	18	19	20	授業振替日 7/17 (水) は月曜日の授業を行う
		21	22	23	24	25	26	27	春学期末試験期間 7/25 (木)～7/31 (水)
		28	29	30	31				
8 月					1	2	3	夏季休業期間 8月1日 (木)～9月30日 (月)	
		4	5	6	7	8	9	10	
		11	12	13	14	15	16	17	
		18	19	20	21	22	23	24	
		25	26	27	28	29	30	31	
9 月		1	2	3	4	5	6	7	
		8	9	10	11	12	13	14	
		15	16	17	18	19	20	21	
		22	23	24	25	26	27	28	秋季卒業式・修了式 9/26 (木) (予定)
		29	30						春学期終講 9/30 (月)
小計 (振替前)		14	17	17	16	16		春学期末試験期間を含む	
小計 (振替後)		16	16	16	16	16		春学期末試験期間を含む	

※補講週間であっても通常授業は行う。補講は各日の第6限に実施するが、事情によりこの時間帯に実施し  
 難しい場合には、各部局の判断により別途日時を設定して補講を行うものとする。

(秋 学 期)

	日	月	火	水	木	金	土	摘 要
10 月			1	2	3	4	5	秋学期開講 10/1 (火)
	6	7	8	9	10	11	12	秋季入学式 10/3 (木) 昼休み
	13	14	15	16	17	18	19	授業振替日 10/15 (火) は月曜日の授業を行う
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
11 月						1	2	常盤祭 11/3 (日) ~11/5 (火)
	3	4	5	6	7	8	9	(11/2 (土) は準備日)
	10	11	12	13	14	15	16	※補講週間(11/11(月)~11/15(金)の各日の第6限)
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
12 月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	※補講週間(12/9(月)~12/13(金)の各日の第6限)
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	冬季休業期間 12/24 (火) ~ 1/5 (日)
	29	30	31					
1 月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	授業振替日 1/15 (水) は月曜日の授業を行う
	12	13	14	15	16	17	18	大学入試センター試験休業日 1/17 (金) ~ 1/19 (日)
	19	20	21	22	23	24	25	※補講週間(1/27(月)~1/31(金)の各日の第6限)
	26	27	28	29	30	31		1/30 (木) は予備日
2 月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	英語統一テスト試験日 2/5 (水)
	9	10	11	12	13	14	15	秋学期末試験期間 2/6 (木) ~ 2/13 (木)
	16	17	18	19	20	21	22	試験振替日 2/13 (木) は火曜日の試験を行う
	23	24	25	26	27	28		春季休業期間 2/14 (金) ~ 3/31 (月) 個別学力検査等試験日 (前期日程) 2/25 (火) ~ 2/26 (水) (予定)
3 月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	個別学力検査等試験日 (後期日程)
	16	17	18	19	20	21	22	3/12 (水) ~ 3/13 (木) (予定)
	23	24	25	26	27	28	29	卒業式・修了式 3/26 (水) (予定)
	30	31						秋学期終講 3月31日 (月)
小計 (振替前)		14	16	17	17	16		英語統一テスト試験日は除く 秋学期末試験期間を含む
小計 (振替後)		16	16	16	16	16		英語統一テスト試験日は除く 秋学期末試験期間を含む
合計		32	32	32	32	32		

## 平成 25 年度 学 年 曆

事 項	期日又は期間	備 考
春 季 休 業 期 間	4月1日(月)～4月4日(木)	
入 学 式	4月4日(木)	
春 学 期 開 講	4月5日(金)	※1
授 業 振 替 日	4月30日(火) は月曜日の授業を行う	
補 講 週 間	5月13日(月)～5月17日(金)	※2
清 陵 祭	5月25日(土)～5月26日(日) (5月25(土)は準備含む)	
開 学 記 念 日	6月1日(土)	
補 講 週 間	6月17日(月)～6月21日(金)	※2
補 講 週 間	7月8日(月)～7月12日(金)	※2
授 業 振 替 日	7月17日(水) は月曜日の授業を行う	
春 学 期 末 試 験 期 間	7月25日(木)～7月31日(水)	
夏 季 休 業 期 間	8月1日(木)～9月30日(月)	
秋 季 卒 業 式・修了式	9月26日(木)	(予定)
春 学 期 終 講	9月30日(月)	
秋 学 期 開 講	10月1日(火)	
秋 季 入 学 式	10月3日(木) 昼休み	
授 業 振 替 日	10月15日(火) は月曜日の授業を行う	
常 盤 祭	11月3日(日)～11月5日(火) (11月2日(土)は準備日)	
補 講 週 間	11月11日(月)～11月15日(金)	※2
補 講 週 間	12月9日(月)～12月13日(金)	※2
冬 季 休 業 期 間	12月24日(火)～1月5日(日)	
授 業 振 替 日	1月15日(水) は月曜日の授業を行う	
大学入試センター試験休業日	1月17日(金)～1月19日(日)	
補 講 週 間	1月27日(月)～1月31日(金)	※2
予 備 日	1月30日(木) は予備日	
英 語 統 一 テ ス ト 試 験 日	2月5日(水)	
秋 学 期 末 試 験 期 間	2月6日(木)～2月13日(木)	
試 験 振 替 日	2月13日(木) は火曜日の試験を行う	
春 季 休 業 期 間	2月14日(金)～3月31日(月)	
個別学力検査等試験日(前期日程)	2月25日(火)～2月26日(水)	(予定)
個別学力検査等試験日(後期日程)	3月12日(水)～3月13日(木)	(予定)
卒 業 式・修了式	3月26日(水)	(予定)
秋 学 期 終 講	3月31日(月)	

※1 4月4日(木)までにオリエンテーション等を行い、4月5日(金)を春学期開講日とする。

※2 補講週間であっても通常授業は行う。補講は各日の第6限に実施するが、事情によりこの時間帯に実施し難い場合には、各部局の判断により別途日時を設定して補講を行なうものとする。



### (3) 履修登録単位数の上限について

#### 【2011年度以降入学者適用】

経営学部では、履修科目の過剰登録を防ぎ、授業時間外学修の充実を図るため、履修登録できる単位数に、2011年度より上限を設定しています。

履修登録できる単位数の上限は、「半期24単位」です。

ただし、成績優良者（直前半期のGPA3以上の者）については、上限を緩和し、28単位まで履修登録することができます。

上限設定科目の対象には、学部必修科目、ゼミナール、集中科目（専門科目）、インターンシップ、教職科目、国際交流科目及び国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目は含まれません。

また、交換留学等、部局長がやむを得ない理由があると認めた場合は、社会科学系学務第二係に申請し、通年48単位以下での春学期・秋学期間で調整を行うことができます。その場合、修学目標に沿った履修計画を立てた上で履修登録を行って下さい。

なお、教養教育科目の履修登録は、半期20単位が登録の上限です。したがって、上記の専門科目とあわせて半期24単位が登録の上限になります。

### (4) 履修登録の照合・確認に関する注意事項

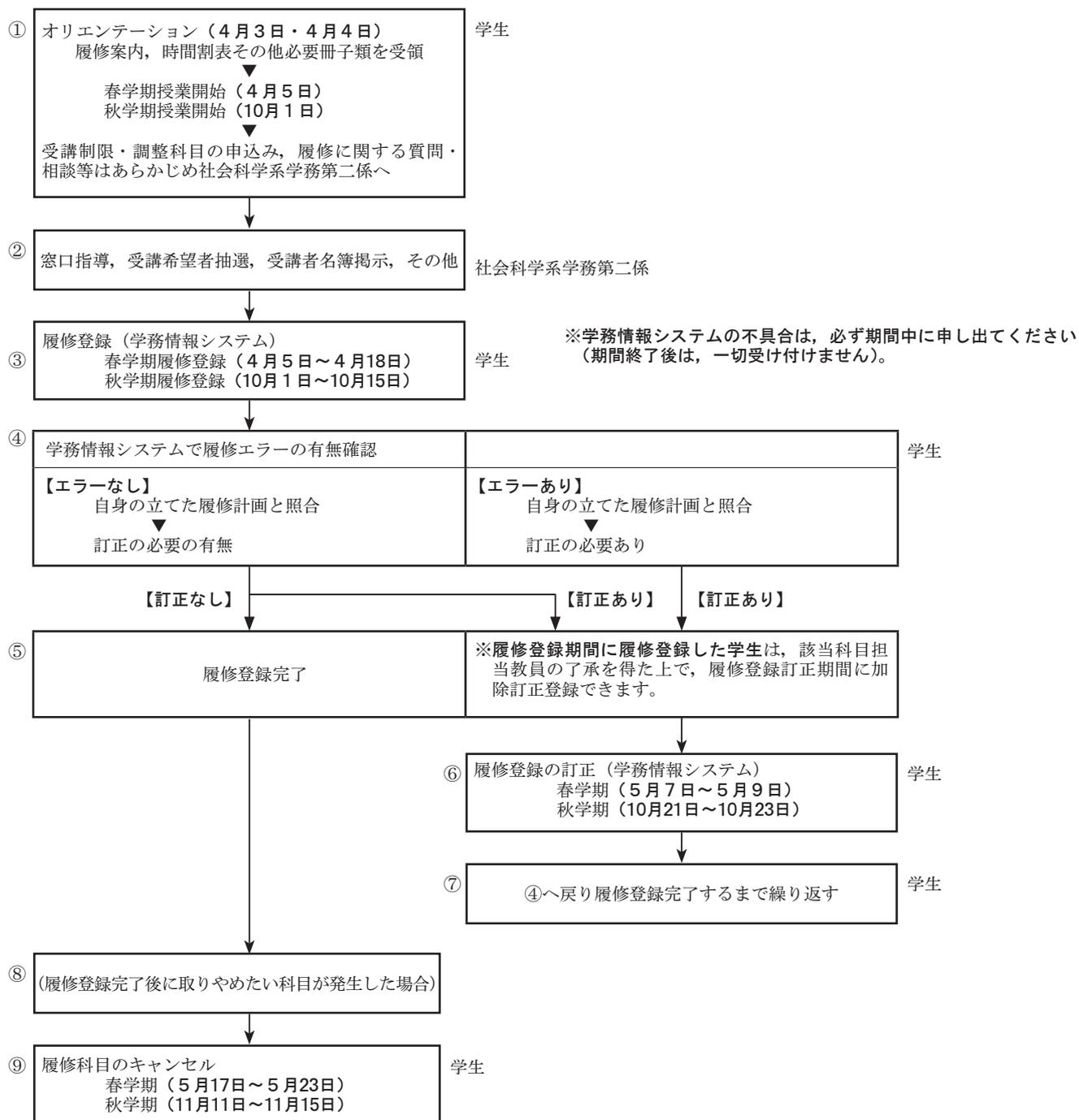
履修登録の訂正、履修科目のキャンセルの日程は次のとおりです。

担当窓口	項目	期 間
社会科学系 学務第二係	履修登録の訂正	5月7日（火）～5月9日（木） 9:00～21:00 <u>ただし、最終日の終了時間は17:00（夜間主は20:30）まで</u>
	履修科目のキャンセル	5月17日（金）～5月23日（木）ただし、土日除く 9:00～21:00 <u>ただし、最終日の終了時間は17:00（夜間主は20:30）まで</u>

※秋学期については、後日掲示連絡します。

- ① 「履修登録表」及び「履修登録確認表」の配布はしませんので、各自忘れずに学務情報システムで確認をおこなってください。
- ② 履修登録した内容を確認し、「登録した内容と異なっている場合」及び「重複登録などの登録エラーがあった場合」は、上記の期間中に社会科学系学務第二係へ申し出てください。
- ③ 履修登録完了後に取りやめたい科目が発生した場合は、上記期間中に必ず手続きをしてください。
- ④ 登録エラー等の授業科目があるにも関わらず、「履修登録の訂正」及び「履修科目のキャンセル」の手続きを行わなかった場合、当該科目は自動的に抹消されます。

## 履修登録手順の流れ図





## 2 昼間主コース

### (1) 卒業要件

経営学部に4年以上在学し、卒業資格基準表に定められた授業科目及び単位数を修得し、卒業論文試験に合格し、卒業認定時においてGPA (Grade Point Average) が2.0以上である者に卒業を認定し、『学士 (経営学)』の学位を授与します。なお、GPAについては26ページを参照してください。

※ 2006年度以前入学生は、『2009年度講義要覧』9ページを参照。

#### ① 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、教養教育科目 (教養コア科目、基礎演習科目、外国語科目及び健康スポーツ科目) 及び専門教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までに、これらすべての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表

教養教育科目	教養コア科目	基礎科目	人文社会科学系	4単位以上	計 24単位以上
			自然科学系【注1】	4単位以上	
			現代科目	2単位以上	
			総合科目	2単位以上	
		基礎演習科目【注2】	2単位		
	外国語科目	英語以外の外国語 (1または2ヶ国語)	8単位 6単位		
		計	38単位以上		
専門教育科目 (ゼミナール8単位を含む)					76単位以上
合計					128単位【注3】

【注1】 自然科学系分野には必修科目があるので注意してください (〔教養コア科目必修科目表〕参照)。

【注2】 基礎演習は2単位の選択科目で2年次秋学期に開講します。なお、2年次春学期に配布される「基礎演習・ゼミナールの手引き」を参照の上、履修してください。

【注3】 合計128単位のうち、教養教育科目38単位及び専門教育科目76単位を除いた14単位分は、教養教育科目及び経営学部専門教育科目の中から履修してください。

※ 2005年度以前入学生は、『2009年度講義要覧』10ページを参照。

#### ② 1単位当たりの授業時間

経営学部では、授業の方法に応じ、授業科目1単位当たりの授業時間を次の通り定めています。

講義，基礎演習及びゼミナール 15時間（ただし，外国語科目は30時間）

実験，実習 30時間

講義，演習，実験，実習または実技のうち2つ以上の方法を併用する授業科目については，その組み合わせに応じ，別途時間数を定めます。なお，時間割上の1時限（90分）は，授業時間外の学修を含めて2時間として単位を計算します。外国語科目を除く講義科目，基礎演習及びゼミナールの場合，1週間に1時限の授業であれば，15週で2単位になります。

### ③ 9月卒業について

9月卒業の要件は下記の通りです。申請方法・期間等の詳細は掲示で確認してください。

<9月卒業の要件>

以下の①～④全てを満たす者。（④については2007年度以降入学生のみ）

①卒業認定の前年度までに卒業論文試験を受験し，合格した者。

②本学部に4年6月以上在学していること。（休学，停学期間<sup>\*</sup>等を除く）※停学期間が3ヵ月を超える場合

③卒業認定年度春学期において，卒業に必要な授業科目及び単位数を修得した者。

④卒業認定時においてGPAが2.0以上である者。

## (2) 教養教育科目

### ① 履修方法

教養教育科目の履修方法に関しては，入学年度初めに配布される『平成25年度教養教育履修案内』に従ってください。なお，教養教育科目の履修登録は半期20単位が登録の上限です。この上限を超えて履修登録することはできません。

2013年度入学生は，下記の科目でクラス指定があります。

教養コア科目（「線形代数Ⅰ・Ⅱ」「微分積分Ⅰ・Ⅱ」）

クラス	学 科
1	経営学科
2	経営学科
3	会計・情報学科
4	会計・情報学科
5	経営システム科学科
6	経営システム科学科
7	国際経営学科
8	国際経営学科

※1年次の1～8のクラス名簿は別に掲示連絡するので，学生は各自で確認してください。

※英語実習1，英語実習2については別にクラス編成します。掲示連絡するので各自確認してください。

※2005年度以前入学生は，授業科目区分の読み替え措置があります。詳細は『平成25年度教養教育履修案内』を参照。

### ② 教養コア科目必修科目表

教養教育科目・教養コア科目のうち，経営学部各学科で必修科目とするのは，以下の○印のある科目です。

	経営学科	会計・情報学科	経営システム科学科	国際経営学科
統計学Ⅰ－A	○	○	○	○
統計学Ⅱ－A				
微分積分Ⅰ	○	○	○	
微分積分Ⅱ				
線形代数Ⅰ		○	○	
線形代数Ⅱ				

### ③ 教養コア科目一覧表

#### a. 基礎科目：人文社会系

教 養 コ ア 科 目					備 考
授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年		
人 文 社 会 系	心理学A	2	半期	1~4	
	心理学B	2	半期	1~4	
	日本の近代文学	2	半期	1~4	
	日本語を教えよう	2	半期	1~4	
	日本の言語	2	半期	1~4	
	中国の古典文学	2	半期	1~4	
	日本の古典文学	2	半期	1~4	
	社会心理学入門	2	半期	1~4	
	障害と周辺領域 I	2	半期	1~4	
	地誌学概論	2	半期	1~4	
	日本近代史	2	半期	1~4	
	ヨーロッパ近現代史	2	半期	1~4	
	日本前近代史	2	半期	1~4	
	環境と倫理	2	半期	1~4	
	諸民族の音楽と文化	2	半期	1~4	
	音楽の基礎	2	半期	1~4	
	イタリア歌曲入門－歌詞をよむ－	2	半期	1~4	
	基礎造形B	2	半期	1~4	
	歌の歴史	2	半期	1~4	
	色彩論	2	半期	1~4	
	水彩画基礎技術	2	半期	1~4	
	美術の見かた	2	半期	1~4	
	逸脱行動の社会学	2	半期	1~4	
	教育と法	2	半期	1~4	
	Literacy of International Laws	2	半期	1~4	
	地域政策論	2	半期	1~4	
	映画論	2	半期	1~4	
	現代芸術論	2	半期	1~4	
	文化人類学の考え方	2	半期	1~4	
	現代の経済A	2	半期	1~4	
	現代の経済B	2	半期	1~4	
	現代政治（国際）	2	半期	1~4	
	現代政治（日本）	2	半期	1~4	
	社会科学の方法	2	半期	1~4	
社会科学の歴史	2	半期	1~4		
社会科学概論A	2	半期	1~4		
社会科学概論B	2	半期	1~4		
法と人間	2	半期	1~4		
法学概論	2	半期	1~4		
日本国憲法	2	半期	1~4	【注1】	
現代と法	2	半期	1~4		
哲学と人間	2	半期	1~4		
アカデミック・リテラシー－YNU学びの羅針盤－	2	半期	1		
伝統社会と近代社会	2	半期	1~4		

【注1】「日本国憲法」は、教員職員免許状を取得する場合は必ず履修してください。

b. 基礎科目：自然科学系

	教 養 コ ア 科 目				備 考
	授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	
自 然 科 学 系	自然史科学概論	2	半期	1~4	
	自然保護と環境破壊	2	半期	1~4	
	気象学入門	2	半期	1~4	
	基礎からの微積分Ⅰ	2	半期	1~4	
	基礎からの微積分Ⅱ	2	半期	1~4	
	実験で学ぶ物理学	2	半期	1~4	
	ギリシャの数学	2	半期	1~4	
	現代社会と化学	2	半期	1~4	
	刃物の科学	2	半期	1~4	
	Webページ作成入門	2	半期	1~4	
	生物学から見たヒト	2	半期	1~4	
	植物の適応と進化	2	半期	1~4	
	Modeling with Statistics	2	半期	1~4	
	Modelling with Calculus and Algebra	2	半期	1~4	
	統計学Ⅰ-A	2	半期	1~4	【注2】
	統計学Ⅱ-A	2	半期	1~4	【注2】
	コンピューターで学ぶ統計学A	2	半期	1~4	
	コンピューターで学ぶ統計学B	2	半期	1~4	
	地球と惑星の科学	2	半期	1~4	
	古生物の科学	2	半期	1~4	
	生物の社会	2	半期	1~4	
	応用地質学	2	半期	1~4	
	化学の世界A (物質観としての化学)	2	半期	1~4	
	化学の世界B (生活の化学)	2	半期	1~4	
	化学の世界C (環境の化学)	2	半期	1~4	
	化学の世界D (生命の化学)	2	半期	1~4	
	名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き	2	半期	1~4	
	情報科学	2	半期	1~4	
	図形科学	2	半期	1~4	
	数理科学Ⅰ	2	半期	1~4	
	数理科学Ⅱ	2	半期	1~4	
	線形代数Ⅰ	2	半期	1~4	【注3】
	線形代数Ⅱ	2	半期	1~4	【注3】
	微分積分Ⅰ	2	半期	1~4	【注4】
	微分積分Ⅱ	2	半期	1~4	【注4】
	体験物理科学A	2	半期	1~4	
	体験物理科学B	2	半期	1~4	
	物理の世界A	2	半期	1~4	
	物理の世界B	2	半期	1~4	
	基礎から学ぶ化学	2	半期	1~4	
エネルギー工学序論	2	半期	1~4	【注5】	
コンピュータシステムとコミュニケーション	2	半期	1~4	【注5】	
ICT Project	2	半期	1~4		
先端機器分析入門	2	半期	1~4		
モバイルプログラミング	2	半期	2~4		
Applicable Computing	2	半期	1~4		

【注2】経営学部全学科必修科目。

【注3】会計・情報学科，経営システム科学科の必修科目。

【注4】経営学科，会計・情報学科，経営システム科学科の必修科目。

【注5】「エネルギー工学序論」及び「コンピュータシステムとコミュニケーション」を平成21年度以前に履修した学生の再履修は現代科目から別の科目を選択してください。現代科目欄の再履修科目とはならないので注意してください。

c. 現代科目

	教 養 コ ア 科 目				備 考
	授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年	
現 代 科 目	教育学（教育と人間）	2	半期	1～4	
	消費社会と共育	2	半期	1～4	
	金融リテラシー入門	2	半期	1～4	
	衣生活の科学	2	半期	1～4	
	食生活論	2	半期	1～4	
	おいしさの科学	2	半期	1～4	
	居住環境論	2	半期	1～4	
	職業と教育	2	半期	1～4	
	人と動物の関係学	2	半期	1～4	
	特別活動研究	2	半期	1～4	
	バイリンガルへのロードマップ	2	半期	1～4	
	学校教育論	2	半期	1～4	
	木材と人間	2	半期	1～4	
	学外活動（教育ボランティア）	2	半期	1～4	
	Multicultural Practice	2	半期	1～4	
	地域連携と都市再生B	2	半期	1～4	
	現代の物流経営	2	半期	1～4	
	現代の経営	2	半期	1～4	
	情報と社会	2	半期	1～4	
	材料学入門	2	半期	1～4	
	材料学入門	2	半期	1～4	
	安全・環境と社会	2	半期	1～4	
	生態工学	2	半期	1～4	
	地球環境と情報	2	半期	1～4	
	科学技術史	2	半期	1～4	
	建築の環境と防災	2	半期	1～4	
	地域連携と都市再生A	2	半期	1～4	
	応用気象学	2	半期	1～4	
	海事技術史	2	半期	1～4	
	トポロジー	2	半期	1～4	
	エネルギーと環境	2	半期	1～4	
	環境リスクとつきあう	2	半期	1～4	
	国際理解13（日本事情1）	2	半期	1～4	
	国際理解10（実践アラブ・イスラーム入門）	2	半期	1～4	
	英語で学ぶ「日本映画史入門」	2	半期	1～4	
	情報ネットワークシステム入門	2	半期	1～4	
地域課題実習Ⅰ	2	半期	1～4		
地域課題実習Ⅱ	2	半期	1～4		
技術と経営:会社とは	2	半期	1～4		
アントレプレナー入門	2	半期	1～4		
実践新商品企画	2	半期	1～4		
社会の変化と自己啓発A	2	半期	1～4		
社会の変化と自己啓発B	2	半期	1～4		
危機管理学	2	半期	1～4		

d. 総合科目

「総合科目」は春学期1科目，秋学期1科目，年間2科目のみ履修できます。

教 養 コ ア 科 目					備 考
授 業 科 目 名	単 位	期 間	対象学年		
学校教育最前線	2	半期	1~4		
障害とその周辺領域Ⅱ	2	半期	1~4		
暮らしの中の心理学	2	半期	1~4		
ことばのあれこれ	2	半期	1~4		
Urban Dynamism of Yokohama	2	半期	1~4		
経済学への招待Ⅰ	2	半期	1~4		
経済学への招待Ⅱ	2	半期	1~4		
経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	2	半期	1~4		
ベンチャーから学ぶマネジメント	2	半期	1~4		
機械工学と社会とのかかわり合い	2	半期	1~4		
機械工学と社会とのかかわり合い	2	半期	1~4		
物質工学と社会	2	半期	1~4		
都市と建築	2	半期	1~4		
土木工学と社会	2	半期	1~4		
海洋工学と社会	2	半期	1~4		
数理科学概論	2	半期	1~4		
物理工学概論	2	半期	1~4		
環境をめぐる諸問題	2	半期	1~4		
システム・エンジニアリング	2	半期	1~4		
情報通信技術が培う近未来医療	2	半期	1~4		

e. 重複履修できない授業科目【2年次生以上】

次の表の「平成25年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修した者は、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

平成25年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
心理学B	精神分析入門
日本の古典文学	日本の古典文学 I 日本の古典文学 II
日本の言語	日本の言語－日本語の諸相－
図形科学	図学 I (工学部専門基礎科目)
生物学から見たヒト	ヒトをめぐるライフサイエンス
体験物理科学A, B	物質の科学A
基礎から学ぶ化学	物質の科学B
物理工学概論	教養としての先端物理科学 科学における新概念形成史
人と動物の関係学	ヒューマン・アニマル・ボンド
環境をめぐる諸問題	環境をめぐる諸問題 1, 2 環境概論 1, 2
社会の変化と自己啓発A	自己啓発論A
社会の変化と自己啓発B	自己啓発論B
応用地質学	地盤地質学
自然史科学概論	自然史科学概論A 東京湾の環境科学 相模湾の環境科学
材料学入門	ものの強さと強さの仕組み
国際理解 4 (台湾の文化と社会)	国際理解 4 (華流の過去と現在)
国際理解11 (文化資源のリサイクル)	文化資源のリサイクル
基礎からの微積分 I	基礎からの微積分 経済・経営のための微積分 I 経済・経営のための微積分 II
基礎からの微積分 II	基礎からの微積分 経済・経営のための微積分 I 経済・経営のための微積分 II
英語演習 (アラブの言語と文化)	アラビア語とその文化 <国際交流科目> 国際理解 3 (アラブの言語と文化)
英語演習 (日米関係史)	日米関係史 <国際交流科目> 国際理解 5 (日米関係史)
国際理解13 (日本事情 1)	核の現代史入門 <国際交流科目> 国際理解13 (核の現代史入門) 英語演習 (核の現代史)
英語演習 (英語を媒介語とした日本語の教え方)	英語を使って日本語を教えよう<国際交流科目> 国際理解 7 (英語を媒介語とした日本語の教え方)
英語演習 (日本と世界の音楽)	日本と世界の音楽<国際交流科目>
英語演習 (日本の社会と文化)	日本の社会と文化<総合科目> 日本の社会と文化 <国際交流科目>
英語演習 (原子核の物理)	現代物理の歩み <国際交流科目>
英語演習 (マクロエンジニアリングとアーキテクチャー)	マクロエンジニアリングとアーキテクチャー <国際交流科目>
英語演習 (材料科学及び材料技術の最近の進歩 (1))	材料科学及び材料技術の最近の進歩 (1) <国際交流科目>
バイリンガルへのロードマップ ※現代科目	バイリンガルへのロードマップ ※基礎 (人文社会系)
地誌学概論	地誌学A
学外活動(教育ボランティア)	学外活動・学外学習 II (教育人間科学部専門科目)
障害とその周辺領域 I	障害とその周辺領域
学校教育論	学校教育最前線

#### ④ 基礎演習科目

基礎演習科目は2年次秋学期に開講される科目で、3年次・4年次のゼミナールへのプレ・ゼミナールとなります。基礎演習に参加した学生は、同一教員のゼミナールに参加することになります。

a. 選考時期

2年次春学期。

b. 単位数

教養教育科目として2単位。

c. 定員

各基礎演習とも10名以内です（ただし、交換留学する学生は定員外とする。）。

#### ⑤ 外国語科目

卒業資格基準表に定められた単位数を修得してください。なお、卒業に必要な単位数を超えて単位を修得した場合は、外国語科目の単位数には算入せず、卒業に必要な教養教育科目の単位数に算入します。

a. 英語

経営学部学生は1年次に英語実習1を4科目4単位、2年次に英語実習2を2科目2単位、英語演習を1科目2単位、合計7科目8単位を履修してください。

科目名	単位数	履修年次
英語実習1S	1	1年次生以上
英語実習1W	1	
英語実習1LR春学期	1	
英語実習1LR秋学期	1	
英語実習(Advanced)	1	2年次生以上
英語実習2SW	1	
英語実習2LR	1	
英語実習(Advanced)	1	2年次生以上
英語演習	2	

ア. 英語実習1（半期1単位）

LRを春学期・秋学期各1科目、SとWを春学期あるいは秋学期に各1科目履修します。以上の4科目4単位が全部揃って、英語実習1の履修が完了します。なお、英語実習1は4単位を越えて履修することはできません。LR(春学期)に「不可」だった場合でも、LR(秋学期)は履修できます。授業は原則としてクラス指定を行います。クラスは掲示連絡しますが、技能毎に異なりますので十分注意してください。

帰国生徒等で、入学時にTOEFL(CBT) 213点、(PBT) 550点以上、(iBT) 79点以上、またはそれに相当するスコアを有する者は、「英語実習1」4科目4単位に代わり、経済学部開講の「英語実習Advanced」4科目4単位を履修することができます。

イ. 英語実習2（半期1単位）

SWとLRを春学期あるいは秋学期に各1単位履修します。以上の2科目2単位がそろって、英語実習2の履修が完了します。授業は原則として英語統一テストの成績をもとにクラス指定を行います。クラスは掲示連絡しますが、技能毎に異なりますので十分注意してください。なお、2012年度の英語統一テストを受験しなかった学生は、各自予備登録する必要があります。詳しくは大学教育総合センター英語教育部による履修相談を受けてください。

また、1年次に英語実習Advanced(4単位)を修得した者は、2年次以降において同科目(2単位)を履修することで、

英語実習 2LR（1単位）及び英語実習 2SW（1単位）と読み替えることができます。

ウ. 英語演習（半期2単位）

CALLシステムを活用したTOEIC対策プログラムです。春学期あるいは秋学期に1科目2単位履修します。加えて授業時間外に、経営学部PC教室で自習課題（アルク・ネットアカデミー）を履修します。

受講クラスは選択制です。履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系学務第二係において希望クラスを予約してください。各クラスとも、定員を超えた場合は抽選になります。（掲示に十分注意すること。）

※2005年度以前入学生は、『平成25年度教養教育履修案内』を参照。

**b. 留学生の英語等履修について**

ア. 英語圏等からの留学生

英語（外国語科目）の必修単位に替えてドイツ語・フランス語・中国語・イスパニア語・朝鮮語・ロシア語のうちから1ヶ国語を8単位（標準的なものとして実習4単位＋演習4単位）履修することができます。希望する学生は、履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系学務第二係に申請してください。

また、日本語科目を6単位（標準的なものとして「日本語上級」4単位＋「日本語演習」2単位）履修してください。ただし、プレイメントテストで中級と判定された者は、上記6単位に加え、「日本語中級」を4単位履修する必要があります。

イ. 英語圏以外からの留学生

英語（外国語科目）8単位（実習6単位＋演習2単位）、日本語科目6単位（標準的なものとして「日本語上級」4単位＋「日本語演習」2単位）を履修してください。ただし、プレイメントテストで中級と判断された者は、上記6単位に加え、「日本語中級」を4単位履修する必要があります。

※2005年度以前入学の留学生については、当該年度の『講義要覧』を参照してください。

**c. 英語以外の外国語**

英語以外の外国語は、次ページの表のとおり授業を開講します。いずれも春学期または秋学期の半期のクラスで、「実習」科目は1単位、「演習」科目は2単位です。なお、いずれの科目も原則としてクラス指定はありません。

経営学部の学生は1または2ヶ国語の科目を合計6単位修得する必要があります。

ア. 実習

「実習」は初級レベルの科目です。同一の外国語について、「実習1」＋「実習2」の「1組2単位」のセットで履修してください。このセットが完成していない場合は、「卒業に必要な外国語の単位」に算入しません。

この「1組2単位」のセットを、2セット（合計4単位）履修してください。「実習（会話）」も同様です。（※「実習1」を履修した場合は、「実習2（会話）」を履修せず、必ず「実習2」を履修してください。）

なお、「実習1」の単位を修得しないと、「実習2」を履修できません。また、同一の外国語科目を、2セット4単位を超えて履修しても、「卒業に必要な外国語の単位」に算入しません。

イ. 演習

「演習」は中級レベルの科目です。「演習」に進む場合は、同一の外国語実習を2セット4単位、揃えるようにしてください。「演習」を履修しない者は、別の外国語実習を1セット2単位修得する必要があります。

（履修例）

- 1科目の場合例1 「中国語実習（1 a＋2 a）」、「中国語実習（1 b＋2 b）」、「中国語演習」
- 例2 「フランス語実習（1＋2）」、「フランス語実習（1＋2）（会話）」、「フランス語演習」
- 2科目の場合例1 「朝鮮語実習（1＋2）」、「朝鮮語実習（1＋2）」、「中国語実習（1 a＋2 a）」
- 例2 「ドイツ語実習（1＋2）」、「ドイツ語実習（1＋2）」、「イスパニア語実習（1 B＋2 B）」

ウ. スキップ及びスピード履修

初級レベルの外国語の能力があると判定された学生は、スキップ履修の制度があります。これは「実習」をスキップして、「演習」から履修することができる制度です。ただし、「実習」をスキップしても卒業に必要な単位数（6単位）は変わりません。

また、時間割等の事情により、「実習2セット4単位」を1年間で履修することができない場合は、スピード履修の制度があります。これは日本語及びイスパニア語を除く初習外国語において、「実習1セット2単位」を修得すれば、その外国語の「演習」に進むことができる制度です。この場合も、卒業に必要な単位数（6単位）は変わりません。

スキップ及びスピード履修の適用を受けるには、一定の条件があります。詳細は『平成25年度教養教育履修案内』および社会科学系学務第二係で確認してください。

※2005年度以前入学生については、『平成25年度教養教育履修案内』を参照。

英語以外の外国語

科目名	単位数	履修年次
ドイツ語実習1	1	1年次生から実習1→実習2→演習の順序で履修します。
ドイツ語実習2	1	
ドイツ語実習1（会話）	1	
ドイツ語実習2（会話）	1	
ドイツ語演習	2	
フランス語実習1	1	
フランス語実習2	1	
フランス語実習1（会話）	1	
フランス語実習2（会話）	1	
フランス語演習	2	
中国語実習1【注1】	1	
中国語実習2【注1】	1	
中国語演習	2	
ロシア語実習1	1	
ロシア語実習2	1	
ロシア語演習	2	
朝鮮語実習1	1	
朝鮮語実習2	1	
朝鮮語演習	2	
イスパニア語実習1	1	
イスパニア語実習2	1	
イスパニア語演習	2	
ギリシア語【注2】	1	2年次以上
ラテン語【注2】	1	2年次以上
日本語中級（留学生のみ）	1	プレイスメントテストの結果で受講科目が指定されます。
日本語上級（留学生のみ）	1	
日本語演習（留学生のみ）	2	

【注1】中国語実習については、同一時間帯に同一科目名で複数の授業が開講されている場合には、受講すべき学部を指定しています。ただし、これはクラス人数調整が必要になった場合の優先順位を示しており、指定以外の学部の受講を制限するものではありません。

【注2】ギリシア語・ラテン語の単位を修得した場合は、外国語科目には算入せず、卒業資格にかかわる教養教育科目として算入します。

## ⑥ 健康スポーツ科目

区 分	授 業 科 目	単位数	期 間	毎週授業時間数	履修年次	備 考
演 習	健 康 ス ポ ー ツ 演 習 B	2	半期	2	1～4	選択科目

【注1】「健康スポーツ演習B」は2単位まで卒業資格にかかわる単位数に算入します。

【注2】授業内容は『教養教育履修案内』等をご覧ください。

健康スポーツ演習Bの受講を希望する者は、教育人間科学部健康スポーツ教育小委員会に受講の届け出を行い、小委員会から登録の許可を得てください。受講の届け出期間等については掲示で確認してください。

なお、健康スポーツ演習Bでは効率的な授業運営のために履修者数の制限を行っているため、定員以上の登録希望者がいる場合は抽選を行います。また、秋学期授業では履修状況によって追加募集することがあります。詳細については『教養教育履修案内』及び掲示等で確認してください。

【注3】「健康スポーツ演習B」は、教育職員免許状を取得するためには必ず履修してください。

## ⑦ 外国人留学生のための授業科目

教養教育科目の中で、外国人留学生だけが履修できる科目として、日本語科目と日本事情科目があります。

### a. 日本語科目

大学で学習するために必要な日本語力を育成する科目であり、基本的な日本語力を育成する日本語実習と、それを発展させ、社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目を履修した場合、外国語科目に代えることができます。その詳細は下の表の通りです。

学 部	代替できる外国語と単位	備 考
経 営 学 部	日本語実習科目 4 単位、日本語演習科目 2 単位、計 6 単位を英語以外の外国語へ	他の外国語を履修した場合でも、左記の日本語科目 6 単位は必修 (※)

※なお、プレイスメントテストで中級と判断された経営学部留学生は、上記 6 単位に加え、「日本語中級」4 単位を履修しなければなりません。

すべての外国人留学生は入学時点でプレイスメントテストを受け、日本語力のレベルによって、中級者と上級者に分けられます。中級者と上級者では、1 年次春学期に受ける日本語科目が異なりますので、注意してください。

中級者とされた留学生は、日本語実習科目のうち、1 年次春学期には日本語中級を履修します。日本語力を高め、大学での学習をスムーズに進めるため、できる限り多くの日本語中級クラスを受講することを強くすすめます。1 年次秋学期からは、日本語上級を履修します。日本語演習を履修することもできます。

上級者は日本語中級を履修することはできません。1 年次春学期から日本語上級を履修します。1 年次秋学期以降にも日本語上級、日本語演習を履修することをすすめます。

日本語科目の履修モデル（日本語教育担当教員がすすめる履修単位数）

中 級 者	1 年次春学期 : 日本語中級 4 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 4 単位 : 日本語演習 2 単位	合 計 1 0 単 位
上 級 者	1 年次春学期 : 日本語上級 2 単位 1 年次秋学期以降 : 日本語上級 2 単位 : 日本語演習 2 単位	合 計 6 単 位

b. 日本語事情科目

日本語事情科目は教養コア科目の現代科目の単位に代えることができます。

c. 授業科目一覧

学部	授業科目		学期	単位数	履修年次	備考	
学部共通	日本語科目	実習科目	日本語中級 A	春	1	1年次春学期	中級者向けクラスであり、 上級者は履修できません。 中級者は1年次春学期に 履修してください。
			日本語中級 B	春	1		
			日本語中級 C	春	1		
			日本語中級 D	春	1		
			日本語中級 E	春	1		
			日本語中級 F	春	1		
		演習科目	日本語上級 A	春	1	1年次～ 4年次	中級者は1年次秋学期から 履修できます。
			日本語上級 B	春	1		
			日本語上級 C	秋	1		
			日本語上級 D	春	1		
			日本語上級 E	秋	1		
			日本語上級 F	秋	1		
	日本語事情科目		日本語演習 C	春	2	1年次秋学期 ～4年次	
日本語演習 E			秋	2			
日本語演習 F			秋	2			
		日本語事情 A	春	2	1年次～ 4年次	教育コア科目の現代科目 の単位に代えることができ ます。	
		日本語事情 E	春	2			
		日本語事情 F	秋	2			

### (3) 専門教育科目

#### ① 履修方法

次の「専門教育科目履修基準表」により、各所属学科ごとの「区分」に対応した授業科目・単位数を履修してください。

卒業にかかわる学部・学科必修科目及び選択必修科目は、所属する学科の「授業科目一覧」(19～23ページを参照)の授業科目から履修してください。それ以外の科目については、「自由選択科目」として、自らの所属と開講学科の別にかかわらず、「授業科目一覧」中から自由に選択することができます。

専門教育科目履修基準表【2011年度以降入学生】

区 分	学 科	経 営 学 科	会 計 ・ 情 報 学 科	経 営 シ ス テ ム 学 科	国 際 経 営 学 科
学 部 必 修 科 目			簿 記 原 理 I 簿 記 原 理 II 経 営 の 英 語	2 単 位 2 単 位 2 単 位	
学 科 必 修 科 目		経営学総論 I 2 単位 経営学総論 II 2 単位	会計学原理 I 2 単位 会計学原理 II 2 単位 管理会計論 I 2 単位 管理会計論 II 2 単位	経営科学総論 2 単位 ビジネス・エコノミクス 2 単位 経営情報論 IA 2 単位	経営学総論 I 2 単位 経営学総論 II 2 単位 国際経営論 I 2 単位 比較経営論 I 2 単位
選 択 必 修 科 目		所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 12 単 位 選 択	所属学科の選択 必修科目から 8 単 位 選 択
法 律 関 係 授 業 科 目		6 単 位 { 経営学部昼間主コース及び経済学部開講の法律関係科目の中から選択し てください。ただし、経済学部開講の法律関係科目は「経済学部基幹科 目群」の中の法律科目から選択してください。 }			
ゼ ミ ナ ー ル		8 単 位 { 演習 I に参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は (演習 I 4 単位・演習 II 4 単位) 8 単位、演習 I のみ単位を修得した場合は 4 単位を、専門教育科目から 修得してください。 }			
夜 間 主 コ ー ス と の 相 互 履 修		30 単位までを卒業資格に必要な単位数に算入できます。 { 夜間主コース開講科目で相互履修できる科目の中から選択してください。 } 【29ページを参照】			
計		76 単 位 以 上			

専門教育科目履修基準表【2010年度以前入学生】

学 科 区 分	経 営 学 科	会 計 ・ 情 報 学 科	経 営 シ ス テ ム 科 学 科	国 際 経 営 学 科
学 部 必 修 科 目		簿 記 原 理 I 簿 記 原 理 II 経 営 の 英 語	2 単 位 2 単 位 2 単 位	
学 科 必 修 科 目	経 営 学 総 論 I 2 単 位 経 営 学 総 論 II 2 単 位	会 計 学 原 理 I 2 単 位 会 計 学 原 理 II 2 単 位 管 理 会 計 論 I 2 単 位 管 理 会 計 論 II 2 単 位	経 営 科 学 総 論 2 単 位 ビ ジ ネ ス ・ エ コ ノ ミ ク ス 2 単 位 経 営 情 報 論 I A 2 単 位 経 営 情 報 論 II A 2 単 位 【注 1】	経 営 学 総 論 I 2 単 位 経 営 学 総 論 II 2 単 位 国 際 経 営 論 I 2 単 位 比 較 経 営 論 I 2 単 位
選 択 必 修 科 目	所 属 学 科 の 選 択 必 修 科 目 か ら 12 単 位 選 択	所 属 学 科 の 選 択 必 修 科 目 か ら 12 単 位 選 択	所 属 学 科 の 選 択 必 修 科 目 か ら 12 単 位 選 択	所 属 学 科 の 選 択 必 修 科 目 か ら 8 単 位 選 択
法 律 関 係 授 業 科 目	6 単 位	経 営 学 部 昼 間 主 コ ー ス 及 び 経 済 学 部 開 講 の 法 律 関 係 科 目 の 中 か ら 選 択 し て く だ さ い 。 た だ し ， 経 済 学 部 開 講 の 法 律 関 係 科 目 は 「 経 済 学 部 基 幹 科 目 群 」 の 中 の 法 律 科 目 か ら 選 択 し て く だ さ い 。		
ゼ ミ ナ ー ル	8 単 位	演 習 I に 参 加 し な い ， ま た は 参 加 し て も 単 位 を 修 得 で き な か っ た 場 合 は 8 単 位 ， 演 習 I の み 単 位 を 修 得 し た 場 合 は 4 単 位 を ， 専 門 教 育 科 目 か ら 修 得 し て く だ さ い 。		
夜 間 主 コ ー ス と の 相 互 履 修	30 単 位 ま で を 卒 業 資 格 に 必 要 な 単 位 数 に 算 入 で き ま す 。 夜 間 主 コ ー ス 開 講 科 目 で 相 互 履 修 で き る 科 目 の 中 か ら 選 択 し て く だ さ い 。 【29 ペ ー ジ を 参 照】			
計	76 単 位 以 上			

【注 1】 2009 年 度 以 前 ， 「 経 営 情 報 論 」 は 「 経 営 情 報 論 I A 」 と 「 経 営 情 報 論 II A 」 に 分 割 。

※ 2005 年 度 以 前 入 学 生 は ， 『 2009 年 度 講 義 要 覧 』 ， 31 ～ 34 ペ ー ジ を 参 照 。

## ② 授業科目一覧

専門教育科目では各授業科目ごとに「履修学年」が指定されています。履修学年に達していない学生は履修登録できません。また、専門教育科目は必ずしも毎年開講するとは限らないので、履修計画を立てる際には留意してください。なお、以下の「授業科目一覧」中で「休講」となっている科目は、2013年度は開講しません。

その他、履修科目の選択にあたっては、上記の「専門教育科目履修基準表」をよく読んでください。

## a. 昼間主コース 経営学科

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修学年	担 当 教 員	科 目 区 分
経 営 学	経 営 学 総 論 I	春	2	1	山 倉 健 嗣	【営】必修，【国】必修
	経 営 学 総 論 II	秋	2	1	ヘラー ダニエル	【営】必修，【国】必修
	企 業 と 社 会 【注1】	春	2	2	三 戸 浩	【営】選択必修
	経 営 管 理 論 I	春	2	2	山 岡 徹	【営】選択必修
	経 営 管 理 論 II	秋	2	2	山 岡 徹	【営】選択必修
	経 営 行 動 論 I		2	2	休 講	【営】選択必修
	経 営 行 動 論 II		2	2	休 講	【営】選択必修
	経 営 組 織 論		2	2	休 講	【営】選択必修
	経 営 戦 略 論		2	2	休 講	【営】選択必修
	組 織 間 関 係 論		2	2	休 講	【営】選択必修
	現 代 企 業 論		2	2	休 講	【営】選択必修
	イノベーションマネジメント論		2	3	休 講	【営】選択必修
	経 営 史		2	3	休 講	【営】選択必修
	人 的 資 源 管 理 論 I	春	2	2	二 神 枝 保	【営】選択必修
	人 的 資 源 管 理 論 II	秋	2	2	二 神 枝 保	【営】選択必修
現 代 コミュニケーション論	春	2	2	中 野 弘 美	【営】選択必修	
企 業 環 境 シ ス テ ム	行 動 科 学	春	2	2	服 部 泰 宏	【営】選択必修
	グ ル ー プ ・ ダ イ ナ ミ ク ス	秋	2	3	服 部 泰 宏	【営】選択必修
	産 業 社 会 学 I	春	2	2	小 川 慎 一	【営】選択必修
	産 業 社 会 学 II	秋	2	2	小 川 慎 一	【営】選択必修
	人 間 科 学 I		2	2	休 講	【営】選択必修
	人 間 科 学 II		2	2	休 講	【営】選択必修
	産 業 心 理 学	春	2	3	藤 森 立 男	【営】選択必修
	環 境 マ ネ ジ メ ン ト 論	春	2	2	孫 穎	【営】選択必修
	環 境 計 画 学	秋	2	3	孫 穎	【営】選択必修
	人 間 環 境 実 験 論		4	3	休 講	【営】選択必修
	企 業 環 境 シ ス テ ム 論		2	2	休 講	【営】選択必修
	公 的 規 制 論		2	3	休 講	【営】選択必修
産 業 組 織 論	春	2	2	貴 志 奈 央 子	【営】【シ】選択必修	

【注1】 昼間主コースの「企業と社会（2単位）」を修得済の場合は、夜間主コースの「経営学原理II（2単位）」を履修できません。

b. 昼間主コース 会計・情報学科 (※は非常勤講師)

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
制 度 制 度 会 計 監 査 論 I 春 2 2 2 2 2 2 2 2	簿 記 原 理 I	春	2	1	泉 宏 之	学部必修
	簿 記 原 理 II	秋	2	1	原 俊 雄	学部必修
	会 計 学 原 理 I	春	2	2	木 村 晃 久	【会】必修
	会 計 学 原 理 II	秋	2	2	木 村 晃 久	【会】必修
	制 度 会 計 論	春	2	3	大雄 智・木村晃久	【会】選択必修
	会 計 監 査 論 I	春	2	3	前 山 政 之	【会】選択必修
	会 計 監 査 論 II	秋	2	3	前 山 政 之	【会】選択必修
	公 会 計 論 I	春	2	2	齋 藤 真 哉	【会】選択必修
	公 会 計 論 II	秋	2	2	齋 藤 真 哉	【会】選択必修
	税 務 会 計 論 I	春	2	2	※平 野 嘉 秋	
税 務 会 計 論 II	秋	2	2	※平 野 嘉 秋		
情 報 会 計	戦 略 会 計 論		2	3	休 講	
	原 価 会 計 論	春	2	2	高 橋 賢	【会】選択必修
	管 理 会 計 論 I	春	2	2	※君 島 美 葵 子	【会】必修
	管 理 会 計 論 II	秋	2	2	※君 島 美 葵 子	【会】必修
	生 態 会 計 論 I	春	2	2	八 木 裕 之	【会】選択必修
	生 態 会 計 論 II	秋	2	2	八 木 裕 之	【会】選択必修
	国 民 会 計 論 I	春	2	2	大 森 明	【会】選択必修
	国 民 会 計 論 II	秋	2	2	大 森 明	【会】選択必修

c. 昼間主コース 経営システム科学科 (※は非常勤講師)

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
経 営 科 学	経 営 科 学 総 論	秋	2	1	郭 沛 俊	【シ】必修
	ビジネス・エコノミクス	春	2	1	安 部 浩 次	【シ】必修
	意 思 決 定 論	春	2	2	郭 沛 俊	【シ】選択必修
	経 営 数 学	春	2	2	鈴 木 香 織	【シ】選択必修
	生 産 シ ス テ ム 論		2	3	休 講	【シ】選択必修
	オペレーションズ・リサーチⅠ	春	2	2	成 島 康 史	【シ】選択必修
	オペレーションズ・リサーチⅡ	秋	2	2	成 島 康 史	【シ】選択必修
デ ー タ 解 析 論	秋	2	2	白 井 美 由 里	【シ】選択必修	
経 営 情 報	経 営 情 報 論 I A	春	2	1	佐 藤 亮	【シ】必修
	経 営 情 報 論 II A	秋	2	2	佐 藤 亮	{ 【シ】選択必修(2011年度以降入学生) 【シ】必修(2010年度以前入学生)
	グ ル ー プ 思 考 シ ス テ ム 論	春	2	1	田 名 部 元 成	【シ】選択必修
	マ ー ケ テ ィ ン グ 戦 略 論	春	2	2	鶴 見 裕 之	【シ】選択必修
	消 費 者 行 動 論	春	2	2	白 井 美 由 里	【シ】選択必修
	マ ー ケ テ ィ ン グ ・ サ イ エ ン ス	秋	2	2	本 橋 永 至	【シ】選択必修
	財 務 論 I	春	2	2	森 田 洋	【シ】選択必修
	財 務 論 II	秋	2	2	伊 藤 有 希	【シ】選択必修
	証 券 市 場 論	春	2	3	※福 田 徹	【シ】選択必修
	フ ィ ナ ン シ ャ ル ・ エ コ ノ ミ ク ス	春	2	3	森 田 洋	【シ】選択必修
	情 報 シ ス テ ム 論	秋	2	3	田 名 部 元 成	【シ】選択必修
	ビ ジ ネ ス ゲ ー ム	春	2	3	白 井 宏 明	【シ】選択必修
イ ン タ ー ネット ・ ビ ジ ネ ス ・ プ ラ ン ニ ン グ	集中	2	2	※滝 沢 哲 夫	【シ】選択必修	

昼間主コース

【注1】 経営学科開講科目「産業組織論」を選択必修科目として履修できます。

【注2】 2008年度以前の入学生で、学科必修科目である「経営情報論（4単位）」を未修得の学生は、「経営情報論IA（2単位）」及び「経営情報論II A（2単位）」を履修することで、前記の科目を修得したものと認めます。

d. 昼間主コース 国際経営学科

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
国 際 経 営	国 際 経 営 論 I	春	2	2	竹 内 竜 介	【国】必修
	国 際 経 営 論 II	秋	2	2	竹 内 竜 介	【国】選択必修
	国 際 人 事 管 理 論 I		2	3	休 講	【国】選択必修
	国 際 人 事 管 理 論 II		2	3	休 講	【国】選択必修
	国 際 マーケティング論 I	春	2	3	谷 地 弘 安	【国】選択必修
	国 際 マーケティング論 II	秋	2	3	谷 地 弘 安	【国】選択必修
	知 財 経 営 論 I		2	3	休 講	【国】選択必修
	知 財 経 営 論 II		2	3	休 講	【国】選択必修
	国 際 会 計 論 I	春	2	3	五十嵐 則 男	【国】選択必修
	国 際 会 計 論 II	秋	2	3	五十嵐 則 男	【国】選択必修
	国 際 財 務 論 I	春	2	3	山 口 修	【国】選択必修
	国 際 財 務 論 II	秋	2	3	山 口 修	【国】選択必修
	海 外 直 接 投 資 論		2	2	休 講	【国】選択必修
	貿 易 論	春	2	2	清 田 耕 造	【国】選択必修
比 較 経 営	比 較 経 営 論 I	春	2	2	曹 斗 燮	【国】必修
	比 較 経 営 論 II	秋	2	2	曹 斗 燮	【国】選択必修
	比 較 経 営 史 I		2	2	休 講	【国】選択必修
	比 較 経 営 史 II		2	2	休 講	【国】選択必修
	比 較 金 融 制 度 論 I	春	2	2	高 橋 正 彦	【国】選択必修
	比 較 金 融 制 度 論 II	秋	2	2	高 橋 正 彦	【国】選択必修
	国 際 コミュニケーション論		2	2	休 講	【国】選択必修
	言 語 コミュニケーション論	秋	2	2	小 林 正 佳	【国】選択必修
	比 較 社 会 文 化 論 I		2	2	休 講	【国】選択必修
	比 較 社 会 文 化 論 II		2	2	休 講	【国】選択必修
	比 較 技 術 経 営 論 I	春	2	2	真 鍋 誠 司	【国】選択必修
	比 較 技 術 経 営 論 II	秋	2	2	真 鍋 誠 司	【国】選択必修

e. 屋間主コース 経営の英語

「経営の英語」は経営学部の教員が個々の専門性に立脚しながら、英語を使って授業を行う学部必修の専門教育科目です。クラスは選択制です。

履修登録に先立つ予め定められた期間に、社会科学系学務第二係において、希望するクラスを予約してください。各クラスとも、定員を超えた場合は抽選になります（掲示に十分注意すること）。なお、ヘラー教員のクラスは定員20名の少人数クラスです。

講座	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
専 門 英 語	経 営 の 英 語	春	2	3	中 野 弘 美	学部必修
	経 営 の 英 語	秋	2	3	中 野 弘 美	学部必修
	経 営 の 英 語	春	2	3	井 上 徹	学部必修
	経 営 の 英 語	秋	2	3	ヘラー ダニエル	学部必修
	経 営 の 英 語	秋	2	3	小 林 正 佳	学部必修
	経 営 の 英 語	春	2	3	小 林 正 佳	学部必修
	経 営 の 英 語	秋	2	3	ヘラー ダニエル	学部必修
	経 営 の 英 語	春	2	3	中 野 弘 美	学部必修

f. 屋間主コース 学科共通科目（講座外）（※は非常勤講師）

区分	授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員
法 律 関 係	企 業 組 織 法 I	春	2	2	柿 崎 環
	企 業 組 織 法 II	秋	2	2	柿 崎 環
	企 業 取 引 法	春	2	2	※福 島 洋 尚
	有 価 証 券 法	秋	2	3	※竹 内 明 世
イ ン タ ー ン シ ッ プ	イ ン タ ー ン シ ッ プ	【41ページを参照してください】			
特 殊 講 義	特 自 動 車 産 業 経 営 論	春	2	2	休 講 ※新井和宏・※鎌田恭幸
	特 社 会 的 起 業 論				
	特 実 務 家 が 説 く 会 計 ・ 監 査 ・ 税 務 の 最 新 情 報	秋	2	2	大 雄 智
	特 マイ・プロジェクト・ランチャー	秋	2	1	{ 井 上 徹 ※伊 藤 淳 司
	特 マーケティング・プラクティス	春	2	2	※伊 藤 淳 司
	特 社 会 に お け る 実 践 体 験 － 富 丘 会 メ ッ セ ー ジ ー	春	2	2	谷 地 弘 安

③ 専門教育科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、一部の授業科目名が変更されています。下記の「専門教育科目新旧対照表」を参照し、旧授業科目に応じて必要な新授業科目を履修してください。修得した単位は、新授業科目で認定します。ただし、旧授業科目の単位を既に修得済の場合は、新授業科目を履修できません。

## 2009年度から変更

学 科	新 授 業 科 目 名	単 位	旧 授 業 科 目 名	単 位
経営システム科	経営情報論ⅠA	2	経営情報論	4
	経営情報論ⅡA	2		

【注】2008年以前入学生は上記2科目4単位をセットで修得しなければ、卒業資格にかかわる単位となりません。

必ず2科目セットで履修し、単位を修得してください。

## 2013年度から変更

学 科	新 授 業 科 目 名	単 位	旧 授 業 科 目 名	単 位
経営システム科	マーケティング戦略論	2	マーケティング論Ⅰ	2
	消費者行動論	2	マーケティング論Ⅱ	2
	マーケティング・サイエンス	2	マーケティング論Ⅲ	2
	インターネット・ビジネス・プランニング	2	インターネットコミュニティとEコマース	2

※2006年度以前入学生は、『2009年度講義要覧』、44～46ページを参照。

### ④ 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目

#### 2013年度

科 目 名	教 員 名
経営学総論Ⅱ	ヘラー ダニエル
簿記原理Ⅱ	原 俊 雄
会計監査論Ⅱ	前 山 政 之
公会計論Ⅱ	齋 藤 真 哉
管理会計論Ⅱ	君 島 美 葵 子
国民会計論Ⅱ	大 森 明
国際経営論Ⅱ	竹 内 竜 介
国際マーケティング論Ⅱ	谷 地 弘 安
起業組織法Ⅱ	柿 崎 環

## (4) 履修・再履修上の注意

### ① 履修登録

履修登録は、春学期登録期間に春学期開講科目と通年開講科目を、秋学期登録期間に秋学期開講科目を登録してください。通年開講科目は秋学期登録できないので注意してください。なお、履修登録をしていない(確認しないまま「誤入力扱い」として抹消された科目を含む)は受講できません。試験を受けても、その成績(単位)は認定されません。また、すでに単位を修得した授業科目を再履修登録することや、同一時限に複数の授業科目を履修登録すること(重複登録)はできません。

履修登録期間終了後に、履修登録を取り消したい場合は、履修科目のキャンセル期間(2ページ参照)に履修のキャンセル手続きを行ってください。この手続きを怠ると、当該科目の評価は「不可」となり、GPAの計算上不利になります。

クラス指定のある授業科目は、指定されたクラス分けに従って履修登録してください。また、受講制限をしている授業科目(基礎演習、ゼミナール、専門教育科目の一部)または受講調整をしている授業科目(英語演習等)の履修登録を希望する学生は、あらかじめ社会科学系学務第二係で申し込み手続きをしてください。その制限または調整等の結果、「受講者名簿」に氏名の記載がなかった学生は、それらの科目を履修登録できません。

なお、短期派遣留学決定者及び同留学後の学生に限り、履修登録期間外の履修登録を認める場合があります。(出発年度と帰国年度に限る。また、授業担当教員の十分な履修指導等を受けることが出来る場合に限る)。

## ② 再履修登録

外国語科目、健康スポーツ科目及び特殊講義（専門科目）を再履修する場合は、科目により履修方法が異なるので、十分注意してください。

英語及び英語以外の外国語の再履修を希望する学生で、カリキュラムの変更により本来の授業科目を履修することができない場合は、「代替科目（ただし異なる教員の授業科目）」を履修登録してください。

特殊講義（23ページ f）の再履修者は、同一名称の特殊講義が開講されている場合は、その科目を履修登録してください。同一名称の特殊講義が開講されていない場合は、特殊講義（23ページ f）の中から一科目を選択し再履修登録してください。

## ③ 授業時間

時 限	時 間 帯	備 考
1	8：50 ～ 10：20	昼 間 時 間 帯
2	10：30 ～ 12：00	
3	13：00 ～ 14：30	
4	14：40 ～ 16：10	
5	16：15 ～ 17：45	昼夜相互時間帯

## (5) 成績評価

授業科目の成績は、試験またはレポートの結果、出席状況、通常の授業における学習態度等を総合して判定します。

### ① 評価方法

#### a. 試 験

対 象 者	履修登録を行い、かつ授業回数の2分の1以上出席した者。
試験実施時期	原則として学期末。ただし、担当教員が必要と認める場合は、学期中に行うことがあります。
受験上の注意	<p>学生証の提示がない学生は受験できません。学生証は試験期間中に限らず常に携帯し、紛失した場合は早急に再発行申請してください。（窓口：学務・国際部教務課）。再発行までに要する日数は1週間です。</p> <p>※試験日程その他詳細については掲示により別途通知します。</p>
不正行為を行った場合の措置	<p>不正行為を行った場合は、「その学期にかかわるすべての履修登録科目の単位を没収するとともに、2ヶ月以上の停学処分とします」。</p> <p>※停学処分開始時期は原則として学期の初めとし、停学処分期間中の履修登録は認めません。</p>

#### b. レポート

レポートの提出先、提出要領及び提出期限等については、学生用掲示板の掲示あるいは担当教員の指示に従ってください。なお、提出期限を過ぎてから社会科学系学務第二係窓口へ提出しようとしても受理することはできないので注意してください。（48ページ：(6) ②「提出物（レポート、卒業論文等）の提出時間帯」を参照）。

#### c. 追試験

次に該当する事由により、学期末試験期間内に行われた科目を受験できなかった場合には、当該科目について追試験の申請をすることができます。

申請事由	必要書類
本人の疾病又は負傷	医師の診断書
両親又は同居の親族の死亡	事実を確認・証明できる書類
交通機関の著しい遅延・運休	
その他、部局長がやむを得ない理由があると認めたとき	

追試験の申請をする際は、社会科学系学務第二係まで申し出てください。

## ② 成績評価

授業科目の成績は、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、及び不可（59点以下）の5段階で表記します。「可」以上の成績を修得した者に、所定の単位を与えます。なお、秀、優の成績評価基準は以下の通りです。

秀は履修目標を十分達成しており、さらに履修目標を上回る成績をおさめていること。

優は履修目標を十分達成しており、「秀」につぐ優秀な成績をおさめていること。

また、成績評価に応じてG P (Grade Point)を与え、以下の式によってGPA（Grade Point Average）を算定します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{総和 (GP} \times \text{単位数)}}{\text{履修登録単位数}}$$

成績とGPAの関係を示すと、以下の通りです。

成績	Grade Point	評価点
秀	4.5	100 - 90点
優	4	89 - 80点
良	3	79 - 70点
可	2	69 - 60点
不可	0	59点以下

GPAは卒業論文提出資格要件（卒業年度初めのGPAが2.0以上）及び卒業資格要件（卒業認定時にGPAが2.0以上）となりますので、十分に注意してください。

成績評価のうち、「不可」については、同一科目の再履修を認めます。再履修を行った場合は、再履修後の成績がその科目の成績となります。また、再履修の場合はGPAの分母は増えません。なお、履修キャンセル期間を過ぎて、履修または試験を放棄した場合は、「不可」となり、GPAは0となるので、注意してください。

※ 2006年度以前入学生は、『2009年度講義要覧』、49ページを参照。

なお、以下の科目は、GPAに算定しません。

入学前既修得単位として認定された科目
編入学による認定科目
他大学開講科目
短期派遣留学による認定科目
国際交流科目
教職に関する科目
専門教育科目「インターンシップ」
大学院博士課程前期経営系科目
理工学部及び教育人間科学部の専門教育科目
卒業資格外科目

### ③ 成績の確認

年2回（4月上旬・10月上旬）、それまでに履修登録した授業科目の成績を「個別成績表」として各自に通知します。この個別成績表は再発行できないので、卒業するまで大事に保管してください。各年度に渡された個別成績表（1年～4年次の成績）を自分自身で整理し、卒業資格を満たしているかどうか必ず確認してください。

また、個別成績表配布日から約1週間（4年生の卒業判定時については、別途期間を設定）を「成績確認期間」と定め、当該成績に異議のある学生は、「履修科目成績確認願」を学務第二係に提出する必要があります。「成績確認期間」終了後は、成績異議申し立て等、一切受け付けません。

なお、「卒業者名簿」は、卒業判定会議（3月中旬）を経てから、学生用掲示板に提示します（電話での照会には一切応じません。）。

## （6）ゼミナール

### ① 参加資格

演習Ⅰ・Ⅱとも教員の承認を得た上で、演習Ⅰについては基礎演習、演習Ⅱについては演習Ⅰの単位修得を履修条件とします。

### ② 時 期

選考は2年次春学期に行います。演習Ⅰは3年次、演習Ⅱは4年次から開始します。

### ③ 定 員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします。

### ④ 単 位 数

演習Ⅰ・Ⅱの単位数は各4単位（計8単位）です。演習Ⅰに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、演習Ⅰのみ単位を修得した場合は4単位を、専門教育科目から修得してください。

### ⑤ 基礎演習科目

ゼミナールの準備として、2年次秋学期に開講される「基礎演習」（12ページを参照）を履修してください。

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、当該指導教員は教授会の承認を得た上で当該学生をゼミナールから除名できます。ただし、学生が辞退を申し出たときは、当該指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることができます。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず社会科学系学務第二係へ申し出てください。

## （7）卒業論文試験

### ① 時 期

4年次秋学期。

### ② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度の前年度までに、専門教育科目（卒業資格にかかわる科目）を48単位（但しゼミナールの単位は除く）以上修得し、かつ卒業論文試験を受験する年度初めのGPAが2.0以上であること。7月中旬に「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は確認してください。

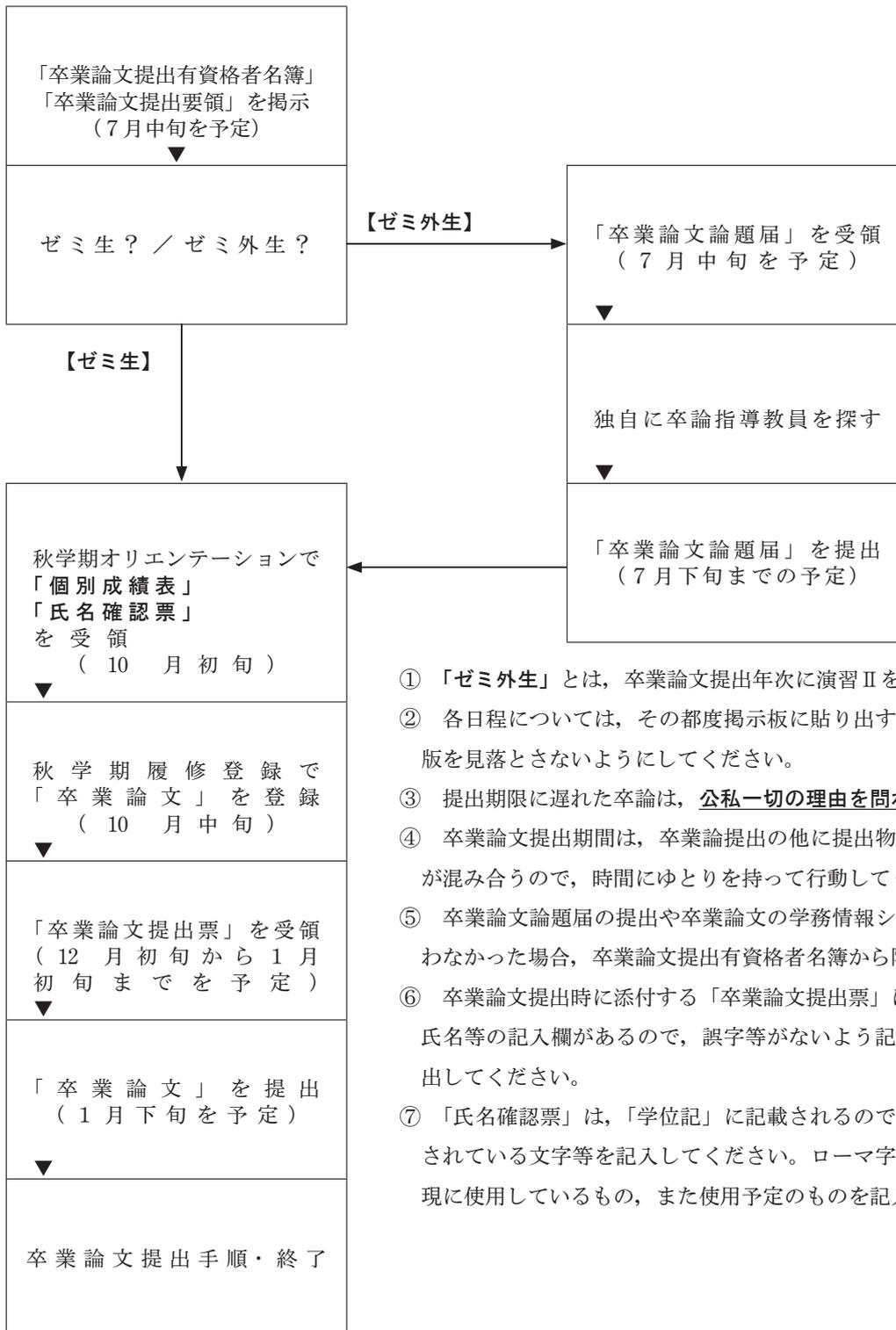
### ③ 論文審査委員

論文審査委員は所属ゼミの指導教員です。ゼミ外生は卒業論文指導教員を独自に探し（社会科学系学務第二係では斡旋しません）、「卒業論文論題届」によって社会科学系学務第二係へ届け出てください（詳細は7月中旬に通知します）。届け出なかった場合、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。

### ④ 卒業論文提出手順

次ページ図を参照。

## 卒業論文提出手順の流れ図（４年次生対象）



- ① 「ゼミ外生」とは、卒業論文提出年次に演習Ⅱを履修していない者です。
- ② 各日程については、その都度掲示板に貼り出すので、特に秋からの掲示板を見落とさないようにしてください。
- ③ 提出期限に遅れた卒論は、公私一切の理由を問わず受け取りません。
- ④ 卒業論文提出期間は、卒業論提出の他に提出物や確認事項があり、窓口が混み合うので、時間にゆとりを持って行動してください。
- ⑤ 卒業論文論題届の提出や卒業論文の学務情報システムでの履修登録を行わなかった場合、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。
- ⑥ 卒業論文提出時に添付する「卒業論文提出票」には、本籍地・生年月日・氏名等の記入欄があるので、誤字等がないよう記入して卒業論文と共に提出してください。
- ⑦ 「氏名確認票」は、「学位記」に記載されるので、原則として戸籍上使用されている文字等を記入してください。ローマ字氏名は、パスポート等に現に使用しているもの、また使用予定のものを記入してください。

## (8) 夜間主コースとの相互履修

「相互履修」とは、昼間主コースの学生が、夜間主コースのために開講されている授業科目を、履修時間帯を超えて履修することです。なお、相互履修については以下の制限があるので留意してください。

- ① 相互履修できるのは2年次生からです
- ② 次の授業科目は相互履修できません。

教養科目， 経営の英語  
 外国語科目， 法律科目  
 基本科目群， ゼミナール  
 学部及び所属学科の必修科目と同一名称科目

- ③ 相互履修により修得した専門教育科目の単位は、30単位まで、卒業資格にかかわる単位数に算入することができます。
- ④ 昼間主コース及び夜間主コース両方に開設される同一名称の授業科目の重複履修は認めません。
- ⑤ 夜間主コースのみに開設される授業科目を昼間主コースの学生が履修登録する場合の科目区分は、「自由選択科目」となります。
- ⑥ 昼夜同時開講科目（2013年度は該当科目なし）

「昼夜同時開講科目」とは、昼夜両コースで開設されている同一名称の授業科目のうち、昼夜相互時間帯（5時限：25ページ，③「授業時間」を参照）に開講される授業科目です。これらは昼間主及び夜間主コース所属の学生双方のために開講されており、学生は該当科目を自らが所属する履修コースの授業科目として履修できます。（単位数についての上述の③の制限を受けません）。

### 3 夜間主コース

#### (1) 卒業要件

経営学部にて4年以上在学し、卒業資格基準表に定められた授業科目及び単位数を修得し、卒業論文試験に合格し、卒業認定時においてGPA (Grade Point Average) が2.0以上である者に卒業を認定し、『学士 (経営学)』の学位を授与します。

※ 2006年度以前入学生は、『2009年度講義要覧』、57ページを参照。

##### ① 卒業資格基準

経営学部の卒業資格にかかわる授業科目は、教養教育科目 (教養科目・外国語科目) 及び専門教育科目に区分します。以下の「卒業資格基準表」のとおり、授業科目区分ごとに卒業に必要な最低修得単位数が定められており、卒業までに、これら全ての条件を満たす必要があります。

卒業資格基準表【2006年度以降入学生】

教養教育科目	教 養 科 目	24単位以上
	外 国 語 科 目	英 語 英語以外の外国語 (1ヶ国語) 8単位 4単位
	計	36単位以上
専 門 教 育 科 目 (ゼミナール 8 単位を含む)		76単位以上
合 計		124単位以上

【注1】 英語以外の外国語は「ドイツ語」又は「フランス語」から1ヶ国語を選択履修してください。

【注2】 合計124単位のうち、教養教育科目36単位及び専門教育科目76単位を除いた12単位分は、教養教育科目及び経営学部専門教育科目の中から履修してください。

【注3】 2006年度より健康スポーツ科目は夜間主コースでは開設しませんが、昼間主コースの科目を履修することができます。修得した単位は2単位まで卒業資格に関する単位数に算入します。

※ 2005年度以前入学生は、『2009年度講義要覧』、58ページを参照。

##### ② 1単位当たりの授業時間

昼間主コースと同様です (5ページを参照)。

##### ③ 9月卒業について

昼間主コースと同様です (6ページを参照)。

#### (2) 教養教育科目

##### ① 必修科目

教養教育科目の必修科目は次の表の通りです。

学 科	経 営 学 科
区 分	
教 養 科 目	数 学 I ・ II 統 計 学 I-B ・ II-B
第 一 外 国 語	「英語」の1-1-I, 1-1-II, 1-2-I, 1-2-II 2-1-I, 2-1-II, 2-2-I, 2-2-II
第 二 外 国 語	「ドイツ語」又は「フランス語」の1-I, 1-II, 2-I, 2-II

② 教養科目一覧表（※は非常勤講師）

教 養 科 目							分 野
授 業 科 目 名	学 期	単 位	履修学年	担 当 教 員			
哲 学 I	春	2	1	※小野島 康 雄		人 文 分 野	
哲 学 II	秋	2	1	※小野島 康 雄			
論 理 ・ 倫 理 I	春	2	1	※山 口 貞 明			
論 理 ・ 倫 理 II	秋	2	1	※山 口 貞 明			
国 語 ・ 国 文 学 I	春	2	1	※伊 藤 高 雄			
国 語 ・ 国 文 学 II	秋	2	1	※伊 藤 高 雄			
歴 史 I	春	2	1	※穴 山 朝 子			
歴 史 II	秋	2	1	※穴 山 朝 子			
美 学 及 び 美 術 史 I	春	2	1	※野 田 由 美 意			
美 学 及 び 美 術 史 II	秋	2	1	※野 田 由 美 意			
心 理 学	春	2	1	※田 中 洋 子			
社 会 学 I	春	2	1	※小 林 由 里 子		社 会 分 野	
社 会 学 II	秋	2	1	※小 林 由 里 子			
社 会 科 学 概 論 I	春	2	1	※飛 田 綾 子			
社 会 科 学 概 論 II	秋	2	1	※飛 田 綾 子			
経 済 I	春	2	1	※久 野 新			
経 済 II	秋	2	1	※久 野 新			
法 学	春	2	1	※松 井 直 之		社 会 分 野	
日 本 国 憲 法	秋	2	1	※松 井 直 之			
数 学 I	春	2	1	鈴 木 香 織		自 然 分 野	
数 学 II	秋	2	1	鈴 木 香 織			
統 計 学 I - B	春	2	1	※坂 原 樹 麗			
統 計 学 II - B	秋	2	1	※坂 原 樹 麗			
化 学 I	春	2	1	※矢ヶ部 重 隆			
化 学 II	秋	2	1	※矢ヶ部 重 隆			
物 理 学 I	春	2	1	※澁 谷 一 夫		自 然 分 野	
物 理 学 II	秋	2	1	※澁 谷 一 夫			

夜間主コース

### ③ 外国語科目（※は非常勤講師）

区分	科目	授業科目名	学期	単位	履修学年	担当教員名
英 語	英語	1 - 1 - I	春	1	1	※木村 聡雄
	英語	1 - 1 - II	秋	1	1	※木村 聡雄
	英語	1 - 2 - I	春	1	1	※津田 千悦子
	英語	1 - 2 - II	秋	1	1	※津田 千悦子
	英語	2 - 1 - I	春	1	2	※木村 聡雄
	英語	2 - 1 - II	秋	1	2	※木村 聡雄
	英語	2 - 2 - I	春	1	2	※津田 千悦子
	英語	2 - 2 - II	秋	1	2	※津田 千悦子
英語以外の 外国語	ドイツ語	1 - I	春	1	1	※本橋 右京
	ドイツ語	1 - II	秋	1	1	※本橋 右京
	ドイツ語	2 - I	春	1	2	※本橋 右京
	ドイツ語	2 - II	秋	1	2	※本橋 右京
	フランス語	1 - I	春	1	1	※平岡 敦
	フランス語	1 - II	秋	1	1	※平岡 敦
	フランス語	2 - I	春	1	2	※平岡 敦
	フランス語	2 - II	秋	1	2	※平岡 敦

### ④ 教養科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、2003～2005年度に一部の科目が変更されています。2004年以前入学生は、『2009年度講義要覧』、61～62ページを参照してください。

## (3) 専門教育科目

### ① 履修方法

次の「専門教育科目履修基準表」により、必要な授業科目・単位数を履修してください。基本科目群として履修する科目以外のものについては、「授業科目一覧」（33～35ページを参照）の中から自由に選択できます。

#### 専門教育科目履修基準表

区分	学 科	経 営 学 科
基本科目群 （「必修」扱い）		経営学総論Ⅰ 簿記原理Ⅰ ビジネス・エコノミクス 国際経営論Ⅰ 経営学総論Ⅱ 簿記原理Ⅱ 経営情報論ⅠB【注1】 国際経営論Ⅱ 上記から8単位を修得すること。
法律関係授業科目		6単位（経営学部夜間主コース開講の法律関係科目に限ります。）
ゼミナール		8単位 { 演習Ⅰに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は } (演習Ⅰ4単位・演習Ⅱ4単位) { 8単位、演習Ⅰのみ単位を修得した場合は4単位を、専門教育科目から } 修得してください。
昼間主コースとの 相互履修		30単位までを卒業資格に必要な単位数に算入できます。
計		76単位以上

【注1】旧授業科目名は「経営情報リテラシー」。

## ② 授業科目一覧

専門教育科目では各授業科目ごとに「履修学年」が指定されています。履修学年に達していない学生は履修できませんので、注意してください。また、専門教育科目は必ずしも毎年開講するとは限らないので、履修計画を立てる際には特に留意してください。なお、以下の「授業科目一覧」の中で「休講」となっている科目は、2013年度は開講しません。

その他、履修科目の選択にあたっては、32ページの「専門教育科目履修基準表」をよく読んでください。

### 夜間主コース 経営学科

経営関係授業科目（※は非常勤講師）

「休講」となっている科目は、2013年度は開講しません。

授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
経 営 学 総 論 I	春	2	1	公 文 歳 人	基本科目群
経 営 学 総 論 II	秋	2	1	ヘラー ダニエル	基本科目群
経 営 学 原 理 I	春	2	2	※小 山 巖 也	
経 営 学 原 理 II【注1】	秋	2	2	※小 山 巖 也	
経 営 行 動 論 I		2	2	休 講	
経 営 行 動 論 II		2	2	休 講	
経 営 組 織 論		2	2	休 講	
経 営 戦 略 論	秋	2	2	山 倉 健 嗣	
現 代 企 業 論	春	2	2	三 戸 浩	
経 営 史		2	3	休 講	
人 的 資 源 管 理 論 I		2	2	休 講	
人 的 資 源 管 理 論 II		2	2	休 講	
行 動 科 学		2	2	休 講	
産 業 社 会 学 I		2	3	休 講	
産 業 社 会 学 II		2	3	休 講	
人 間 科 学 I	春	2	2	藤 森 立 男	
人 間 科 学 II	秋	2	2	※小 嶋 正 敏	
産 業 心 理 学		2	3	休 講	
環 境 マ ネ ジ メ ン ト 論		2	2	休 講	
企 業 環 境 シ ス テ ム 論		2	2	休 講	
産 業 組 織 論	春	2	2	貴 志 奈 央 子	

【注1】夜間主コースの「経営学原理Ⅱ（2単位）」を修得済の場合は、昼間主コースの「企業と社会（2単位）」を履修できません。

会計・情報関係授業科目（※は非常勤講師）

「休講」となっている科目は、2013年度は開講しません。

授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
簿 記 原 理 I	春	2	1	泉 宏 之	基本科目群 基本科目群
簿 記 原 理 II	秋	2	1	原 俊 雄	
会 計 学 原 理 I	春	2	2	大 雄 智	
会 計 学 原 理 II	秋	2	2	大 雄 智	
公 会 計 論 I		2	2	休 講	
公 会 計 論 II		2	2	休 講	
原 価 会 計 論	春	2	2	高 橋 賢	
管 理 会 計 論 I	春	2	2	※君 島 美葵子	
管 理 会 計 論 II	秋	2	2	※君 島 美葵子	
生 態 会 計 論 I		2	2	休 講	
生 態 会 計 論 II		2	2	休 講	
国 民 会 計 論 I		2	2	休 講	
国 民 会 計 論 II		2	2	休 講	

経営システム科学関係授業科目（※は非常勤講師）

「休講」となっている科目は、2013年度は開講しません。

授 業 科 目 名	学期	単位	履修 学年	担 当 教 員	科 目 区 分
経 営 科 学 総 論		2	1	休 講	基本科目群
ビ ジ ネ ス ・ エ コ ノ ミ ク ス	秋	2	1	安 部 浩 次	
意 志 決 定 論		2	2	休 講	
生 産 シ ス テ ム 論	秋	2	3	松 井 美 樹	
経 営 情 報 論 I B	春	2	1	※杉 村 倫 代	基本科目群
経 営 情 報 論 II B	秋	2	1	※杉 村 倫 代	
マ ー ケ テ ィ ン グ 戦 略 論	春	2	2	鶴 見 裕 之	
消 費 者 行 動 論		2	2	休 講	
財 務 論 I		2	2	休 講	
財 務 論 II		2	2	休 講	

## 国際経営関係授業科目

「休講」となっている科目は、2013年度は開講しません。

授 業 科 目 名	学期	単位	履修学年	担 当 教 員	科 目 区 分
国 際 経 営 論 I	春	2	2	河 野 英 子	基本科目群 基本科目群
国 際 経 営 論 II	秋	2	2	河 野 英 子	
国 際 人 事 管 理 論 I	春	2	3	柴 田 裕 通	
国 際 人 事 管 理 論 II	秋	2	3	柴 田 裕 通	
海 外 直 接 投 資 論	春	2	2	清 田 耕 造	
貿 易 論		2	2	休 講	
比 較 経 営 史 I	春	2	2	青 木 洋	
比 較 経 営 史 II	秋	2	2	青 木 洋	
言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論		2	2	休 講	
比 較 技 術 経 営 論 I		2	2	休 講	
比 較 技 術 経 営 論 II		2	2	休 講	
経 営 の 英 語	秋	2	3	小 林 正 佳	

## 法律関係授業科目及びインターンシップ（※は非常勤講師）

「休講」となっている科目は、2013年度は開講しません。

区分	授 業 科 目 名	学期	単位	履修学年	担 当 教 員
法 律 関 係	企 業 組 織 法 I	春	2	2	※西 村 将 樹
	企 業 組 織 法 II	秋	2	2	※西 村 将 樹
	企 業 取 引 法		2	2	休 講
	有 価 証 券 法	春	2	3	※林 戸 孝 行
	企 業 活 動 と 法	春	2	2	※長 友 昭
	民 法 I		2	2	休 講
	民 法 II		2	2	休 講
イ ン タ ー ン シ ッ プ	イ ン タ ー ン シ ッ プ	【41ページを参照してください】			

## ③ 専門教育科目新旧対照表

カリキュラムの変更に伴い、一部の授業科目が変更されています。下記の「専門教育科目新旧対照表」を参照し、旧授業科目に応じて必要な新授業科目を履修してください。修得した単位は、新授業科目名で認定します。ただし、旧授業科目の単位を既に修得済みの場合は、新授業科目を履修できません。

## 2008年度以前入学生（2009年度から変更）

新授業科目名	単位	旧授業科目名	単位
環境マネジメント論〈科目名変更〉	2	環境管理学	2
経営情報論ⅠB〈科目名変更〉	2	経営情報リテラシー	2
経営情報論ⅡB〈科目名変更〉	2	経営とIT	2

2012年度以前入学生（2013年度から変更）

新授業科目名	単位	旧授業科目名	単位
マーケティング戦略論〈科目名変更〉	2	マーケティング論Ⅰ	2
消費者行動論〈科目名変更〉	2	マーケティング論Ⅱ	2

※2006年度以前入学生は、『2009年度講義要覧』、72～75ページを参照。

④ 分割科目「Ⅰ」の単位を修得済みであることを履修条件とする科目

2013年度(※は非常勤講師)

科目名	教員名
経営学総論Ⅱ	ヘラー ダニエル
簿記原理Ⅱ	原 俊 雄
会計学原理Ⅱ	大 雄 智
企業組織法Ⅱ	※西 村 将 樹

## （４）履修上の注意

① 履修登録

昼間主コース、24～25ページを参照。

② 授業時間

授業時間（夜間主コース）

時 限	時 間 帯	備 考
5	16：15 ～ 17：45	昼夜相互時間帯
6	17：50 ～ 19：20	夜 間 時 間 帯
7	19：25 ～ 20：55	

## （５）成績評価

昼間主コースと同様です（25ページを参照）。

## （６）ゼミナール

① 参加資格

演習Ⅰ・Ⅱとも教員の承認を得た上で、演習Ⅱについては演習Ⅰの単位修得を履修条件とします。

② 時期

ゼミの選考は2年次秋学期に行います。演習Ⅰは3年次、演習Ⅱは4年次から開始します。

③ 定員

各ゼミナールとも1学年につき10名程度とします。

④ 単位数

演習Ⅰ・Ⅱの単位数は各4単位（計8単位）です。演習Ⅰに参加しない、または参加しても単位を修得できなかった場合は8単位、演習Ⅰのみ単位を修得した場合は4単位を専門教育科目から修得してください。

### ⑤ ゼミナールからの除名及び辞退

ゼミナールへの出席が著しく少ない場合、またはその他の理由でゼミナールに参加させておくことが適当でないと認められる場合には、該当指導教員は教授会の承認を得た上で当該学生をゼミナールから除名できます。ただし、学生が辞退を申し出たときは、当該指導教員は教授会の承認を得ず学生の申し出を認めることができます。

なお、ゼミナールを辞退した学生は、その旨を必ず社会科学系学務第二係へ申し出てください。

## (7) 卒業論文試験

### ① 時期

4年次秋学期。

### ② 受験の資格

卒業論文試験を受験する年度の前年度までに、専門教育科目（卒業資格にかかわる科目）を40単位（ただし、ゼミナールの単位は除く）以上修得し、かつ卒業論文試験を受験する年度初めのGPA2.0以上であること。7月中旬を目途として「卒業論文提出有資格者名簿」並びに「卒業論文提出要領」を掲示するので、該当する学生は注意してください。

### ③ 論文審査委員

論文審査委員は所属ゼミの指導教員です。ゼミ外生は卒業予定年度の秋学期開始前までに、卒業論文指導教員を独自に探し（社会科学系学務第二係では斡旋しません）、「卒業論文論題届」を社会科学系学務第二係へ届け出てください（詳細は7月中旬に通知します）。届け出なかった場合は、卒業論文提出有資格者名簿から除名します。

### ④ 卒業論文提出手順

昼間主コース、28ページを参照。

## (8) 昼間主コースとの相互履修

「相互履修」とは、夜間主コースの学生が、昼間主コースの学生のために開講されている授業科目を、履修時間帯を越えて履修することです。なお、相互履修について以下の制限があるので留意してください。

- ① 相互履修できるのは2年次生からです。（ただし、インターンシップ前提科目を除く）。
- ② 次の授業科目は相互履修できません。

教養コア科目（インターンシップ前提科目及び地域交流科目を除く）  
 外国語科目、基礎演習、ゼミナール  
 基本科目群と同一名称科目  
 経営の英語、法律関係科目

- ③ 相互履修により修得した専門教育科目の単位は、30単位まで、卒業資格にかかわる単位数に算入できます。
- ④ 昼間主コースの教養教育科目のうち、インターンシップ前提科目（「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」「ベンチャーから学ぶマネジメント」）、地域交流科目、健康スポーツ科目は相互履修できます。修得した単位は、卒業資格にかかわる教養教育科目の単位となります（ただし、健康スポーツ科目は2単位まで）。
- ⑤ 夜間主及び昼間主コースの両方で開設される同一名称の授業科目の重複履修は認めません。
- ⑥ 昼間主コースのみに開講される授業科目を、夜間主コースの学生が履修登録する場合の授業区分は「特殊講義」となります。
- ⑦ 昼夜同時開講科目（2013年度は該当科目なし）

「昼夜同時開講科目」とは、昼夜両コースで開設されている同一名称の授業科目のうち、昼夜相互時間帯（5時限：36ページ、②「授業時間」を参照）に開講される授業科目のことです。これらは昼間主及び夜間主コース所属の学生双方のために開講されており、学生は当該科目を自らが所属する履修コースの授業科目として履修できます（単位数についての上述③の制限を受けません）。

## 4 経営学部以外の授業科目の履修

経営学部以外で開講される授業科目を履修することができます。その場合、修得した単位は、最大30単位まで、本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な単位数に算入します。

- |                               |
|-------------------------------|
| ①経済学部専門教育科目 ≤ 8単位             |
| ②経済学部法律関係授業科目 ≤ 6単位【注1】       |
| ③国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目 ≤ 8単位 |
| ④横浜市内大学間 ≤ 8単位                |
| ⑤国際交流科目 ≤ 8単位                 |
| -----                         |
| ①+②+③+④+⑤ ≤ 30単位              |

【注1】 昼間主コースのみ

なお、修得した単位の取扱いについては以下のとおりです。

### (1) 経済学部開講科目

- ① 経済学部の専門教育科目は、8単位まで卒業に必要な単位数に算入します。
- ② 下記の授業科目は履修対象から除外します。

履修学年に1年次が含まれている授業科目
集中講義の形式で実施される授業科目
インターンシップ
ゼミナール
教職に関する授業科目
法律関係授業科目（夜間主コースのみ）

- ③ 成績はGPAに算定します。
- ④ 法律関係授業科目の単位の取り扱い（昼間主コースのみ）

昼間主コースの学生は経済学部の法律関係授業科目を履修することができます。ただし、修得した単位は経営学部専門教育科目履修基準表に規定する法律関係授業科目の単位数（6単位）に算入します。法律関係授業科目の修得単位数が6単位を超えた場合のみ、その超過分を上記①の単位数に算入します。

下記の法律関係授業科目は経営学部と経済学部で共同開講している同一科目です。経営学部生は経営学部開講の科目名で履修登録してください。

経営学部開講		経済学部開講
企業組織法Ⅰ	↔	商法1
企業組織法Ⅱ	↔	商法2
企業取引法	↔	商法3
有価証券法	↔	商法4

### (2) 理工学部及び教育人間科学部開講科目

理工学部及び教育人間科学部で開講される専門教育科目のうち、一部の科目を履修することができます。ただし、これらの科目の単位を修得しても卒業資格外の単位となり、その成績もGPAに算定しません。

### (3) 地域交流科目

地域交流科目とは、特定のテーマについて、所属する学部・学科を超えて系統的に学習する「副専攻プログラム」のひとつです。地域の課題解決を担う人材を実践的に育てることを目的として開設しています。

地域交流科目は教養教育科目と各学部の専門教育科目の一部で構成されています。それぞれの科目を履修した場合は、教養教育科目または各学部の専門教育科目を履修したもの〔上記(1)、(2)を参照〕として単位が与えられます。

地域交流科目の詳細は、『平成25年度地域交流科目履修案内』または次のURLを参照してください。

<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/30progn/>

### (4) 国際社会科学府経営学専攻博士課程前期開講科目

本学大学院国際社会科学府経営学専攻博士課程前期の開講科目を履修することができます。履修を希望する学生は、履修登録前に社会科学系学務第二係に履修希望届を提出してください。

- ① 提供科目は原則として、専修コース（ビジネス・スクール）を除くすべての開講科目です。
- ② 履修年次は4年次のみです。
- ③ 履修の可否は科目担当教員により決定されます。
- ④ 本人の申し出により、8単位まで卒業に必要な専門教育科目の単位数に算入することができます。
- ⑤ 成績はGPAに算定しません。
- ⑥ 学部の卒業に必要な単位数に算入せず、国際社会科学府経営学専攻博士課程前期に進学した場合は、本人の申し出により、8単位まで修了に必要な専門教育科目の単位数に算入することができます。

### (5) 横浜市内大学間単位互換制度

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある12の大学が協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に履修できる制度です。なお、放送大学の授業科目もこの制度を準用して履修することができます。

- ① 履修の対象となるのは、専門教育科目のみです。
- ② 8単位まで卒業に必要な単位数に算入します。
- ③ 成績はGPAに算定しません。
- ④ 履修学年は各大学の指定によります。
- ⑤ 単位認定は科目の内容及び成績に基づいて、経営学部で行います。
- ⑥ 履修希望者は学務・国際部教務課で配布する募集要項を受領し、指定された期日までに学務・国際部教務課へ申請してください。
- ⑦ 履修の可否は希望先大学の選考により決定され、4月下旬に学務・国際部教務課より履修希望者に通知します。

### (6) 国際交流科目

国際交流科目とは短期留学国際プログラムにより開設する授業科目です。主に、本学『留学生センター』で開講され、授業は英語で行われます。

国際交流科目には、教養教育科目として設定されている科目、経営学部が専門教育科目として単位認定する科目、及びその他の科目があります。これらの科目の単位認定方法は以下の通りです。

- ① 教養教育科目として設定されている科目は教養教育科目として履修登録し、単位を修得すると教養教育科目の単位となります。これを国際交流科目として履修登録すると、卒業資格外の単位となりますので注意してください。
- ② 経営学部が専門教育科目として単位を認定する科目は、8単位を上限として、卒業に必要な単位数に算入します。

## 2013年度国際交流科目／経営学部単位認定科目

授 業 科 目 名	学 期	単 位	履 修 年 次	担 当 教 員
日 本 の 経 営	春	2	1 年次生以上	山 倉 健 嗣 柴 田 裕 通 二 神 枝 保
日本における環境会計	春	2		大 森 明
日 本 型 生 産 管 理	春	2		松 井 美 樹
日 本 の 企 業 シ ス テ ム	春	2		長谷川 健 治

③ その他の科目は単位を修得しても、卒業資格外の単位となります。

なお、国際交流科目の成績はGPAに算定しません。教養教育科目として単位を修得した場合のみ、GPAに算定します。開講科目の詳細については、社会科学系学務第二係または留学生センターに照会してください。

## (7) 交換留学制度

### ① 概要

本学部では、イギリス、アメリカ、オーストラリア、フランス、スウェーデン、中国、韓国、スイス、チェコ、インド等50校以上の協定校と学生交流の覚書を交わしており、1年あるいは半年の期間、本学に在籍したまま各協定大学へ留学することができます。留学中、授業料は本学で納入し、相手大学の検定料、入学料、授業料は免除されます。また、留学中に修得した単位は、教授会の議を得て認定の可否が決定されます。

ただし、交換留学生となるためには、いくつかの条件を満たさなければなりません。大学ごとに応募資格や派遣定員が決まっていますので、あらかじめ確認し、十分に準備をするようにしてください。語学面では、英語圏の大学及び非英語圏の大学の英語によるコースへの留学希望者の場合には、学内基準として、TOEFL iB T80が必要です。非英語圏の大学への留学希望者の場合にも、各種語学テストのスコアや第2外国語の履修証明（成績）等が必要になります。

各大学への応募資格、派遣定員、就学期間等詳細については、社会科学系学務第二係窓口で確認してください。また、経営学部や教務課では、留学説明会を実施していますので、積極的に参加するようにしてください。

### ② 単位の認定

- 留学先大学での履修科目の内容が、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合に単位を認定します。
- 対象となる科目は、教養教育科目と専門教育科目の全てです。
- 留学先履修科目1科目に対して、経営学部開講科目1科目が対応します。ただし、履修科目の単位が4単位以上の場合、経営学部開講科目2科目で認定することがあります。
- 対応する科目がない場合（単位修得済みを含む）は、卒業資格外の単位となります。
- 成績はGPAに算定しません。
- 帰国後1ヶ月以内に社会科学系学務第二係まで申請してください。

### ③ その他

教育上有益と認める場合、休学期間中に外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について、経営学部開講科目のいずれかに相当すると判断された場合は、単位の認定をします。単位の認定方法は、(7)②を参照すること。

## 5 キャリア教育

キャリア教育とは就業への意識と適応能力を高め、将来の職業選択に資するための教育です。経営学部では、キャリア教育の一環として、以下の制度を設けています。

### (1) インターンシップ

インターンシップは学生が一定期間企業等で研修生として働き、自分の将来に関連する就業を体験できる制度です。経営学部ではインターンシップを専門教育科目として開設しています。同科目を履修した場合は最大6単位まで卒業に必要な単位数に算入します。なお、成績はGPAに算定しません。

#### ① 対象となるインターンシップ

企業等で1ヶ月以上の業務を行う中長期・実践型のものに限ります。

#### ② インターンシップ前提科目の履修

インターンシップの実践以前に、経営学部が毎年度開講する教養コア科目（総合科目）、「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」の2科目のうち1科目以上を履修登録済であること。

※ 夜間主コースの学生も、上記のインターンシップ前提科目を履修できます。修得した単位は、教養教育科目の単位となります。

#### ③ インターンシップ受入れ企業等の決定

学生本人が行うこと。ただし、特定の受入れ可能な企業の紹介とマッチングを経営学部が支援します。支援内容等は掲示板で確認してください。

#### ④ 提出書類

インターンシップ受入れ企業等の決定後、「インターンシップ単位認定申請書」を社会科学系学務第二係に提出してください。また、インターンシップ終了後、「インターンシップ成果報告書」、受入れ企業等が作成した「インターンシップ評価書」を社会科学系学務第二係に提出してください。なお、提出に必要な用紙は社会科学系学務第二係にあります。

#### ⑤ 履修登録

上記④をすべて終えた次の学期に、認定単位数に基づき、履修登録を行います。履修登録の方法は掲示で確認してください。単位認定の対象となるインターンシップ実践期間は、履修登録を行う学期の前学期末までです。また、インターンシップを継続中の場合は、社会科学系学務第二係に報告してください。

#### ⑥ その他

- a. インターンシップは、休業期間に行うことが原則です。授業への出席に支障があると判断される場合は、履修できないので注意してください。
- b. 認定単位数は、「インターンシップ成果報告書」とインターンシップ受入れ企業等作成の「インターンシップ評価書」を基に、就業90時間1単位を目安として経営学部教授会で決定します。
- c. インターンシップ実践において、交通費及びそれに代わる報酬等が支払われない場合には、実習定期乗車券を申請することができます。申請者は、インターン受入れ決定後、直ちに「インターンシップ実習用定期乗車券申請書・交通費無支給証明書」を提出してください。用紙は社会科学系学務第二係にあります。
- d. 学外でのインターンシップ実践に際しては、受入れ企業側の保険の有無を確認し、保険が適用されない場合には、学生自身の負担において学生障害保険に加入してください。

## (2) 副専攻プログラム ビジネス・プラクティス

ビジネス・プラクティスは、所属する専攻（課程・学科）以外の分野を系統的に学習する「副専攻プログラム」の一つです。ビジネスにおける実践性を重視した下記の「ビジネス・プラクティス科目群」の修得と、現実的な課題への対応能力を養う「ビジネス・プラクティス修了課題」への取り組みによって、企画力・発信力・実現力を養い、ビジネス人材としての価値を高めることを意図しています。

### ① ビジネス・プラクティス科目群

コア科目	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論(必修)
	ベンチャーから学ぶマネジメント(必修)
選択科目	経営学部インターンシップ
	マイ・プロジェクト・ランチャー
	マーケティング・プラクティス
	現代の物流経営
	インターネットコミュニティとEコマース
	ビジネスゲーム
	特定の産業を取り上げ、経営者・実務家から経営ノウハウを学ぶ授業 （「社会的企業論」など）
社会における実践経験　－富丘会メッセージ－	

### ② 修了要件

下記の3つの要件をすべて満たした者を修了とします。

- コア科目計4単位（「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」及び「ベンチャーから学ぶマネジメント」）を修得。
- 選択科目「ビジネス・プラクティス科目群」から8単位を修得。
- 経営学部キャリア教育委員会が課す「ビジネス・プラクティス修了課題」の合格。

### ③ ビジネス・プラクティス修了課題と申請手続き

ビジネス・プラクティス修了課題は、年1回、秋学期に行います。上記の修了要件のa, bを満たしているか、または当該年度の秋学期に単位修得見込みで、ビジネス・プラクティスの修了を希望する者は、秋学期の履修登録期間中に、ビジネス・プラクティス修了課題受験申請書を、社会科学系学務第二係に提出してください。申請者にはビジネス・プラクティス修了課題の実施について別途連絡します。

### ④ 修了証

ビジネス・プラクティス修了課題に合格し、②の修了要件をすべて満たした者には、当該年度末に副専攻プログラム「ビジネス・プラクティス」修了証を発行します。

## 6 教育職員免許状

経営学部では教育職員免許状を取得することができます。取得できる免許状の種類は「高等学校教諭1種普通免許状」、教科は「商業」です。

### (1) 必要な資格と単位

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法及び同法施行規則に規定された以下の資格と科目の単位を修得する必要があります。

基礎資格	学士の学位を有すること。																
教科に関する科目	2010年度入学生以降:44単位（「職業指導」4単位を必ず含めること） 2009年度入学生以前:42単位（「職業指導」4単位を必ず含めること）																
教職に関する科目	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 80%;">教職論</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">2単位</td> </tr> <tr> <td>人間形成論【2010年度以前入学生】</td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> </tr> <tr> <td>教育基礎論【2011年度以降入学生】</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td>教育の心理学</td> <td style="text-align: right;">2単位</td> </tr> <tr> <td>商業科教育法</td> <td style="text-align: right;">4単位</td> </tr> <tr> <td>生徒理解【2010年度以前入学生】</td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> </tr> <tr> <td>生徒・進路指導論【2011年度以降入学生対象】</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td>教育実習</td> <td style="text-align: right;">3単位</td> </tr> </tbody> </table>	教職論	2単位	人間形成論【2010年度以前入学生】	}	教育基礎論【2011年度以降入学生】	2単位	教育の心理学	2単位	商業科教育法	4単位	生徒理解【2010年度以前入学生】	}	生徒・進路指導論【2011年度以降入学生対象】	2単位	教育実習	3単位
教職論	2単位																
人間形成論【2010年度以前入学生】	}																
教育基礎論【2011年度以降入学生】		2単位															
教育の心理学	2単位																
商業科教育法	4単位																
生徒理解【2010年度以前入学生】	}																
生徒・進路指導論【2011年度以降入学生対象】		2単位															
教育実習	3単位																
特に必要なものとして文部科学省令で定める科目	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 80%;">日本国憲法</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">2単位</td> </tr> <tr> <td>体育</td> <td style="text-align: right;">2単位</td> </tr> <tr> <td>外国語コミュニケーション</td> <td style="text-align: right;">2単位</td> </tr> <tr> <td>情報機器の操作</td> <td style="text-align: right;">2単位</td> </tr> </tbody> </table>	日本国憲法	2単位	体育	2単位	外国語コミュニケーション	2単位	情報機器の操作	2単位								
日本国憲法	2単位																
体育	2単位																
外国語コミュニケーション	2単位																
情報機器の操作	2単位																

### (2) 履修方法

#### ① 教科に関する科目

教科に関する科目44単位（2009年度入学生以前は42単位）は、本学部専門教育科目のうち、商業関係科目の単位で充当します。商業関係科目については、必要に応じて学務第二係で確認してください。なお、「職業指導」（4単位）は「人間科学Ⅰ」「人間科学Ⅱ」（計4単位）または「人的資源管理論Ⅰ」「人的資源管理論Ⅱ」（計4単位）を代替科目として指定しているので、いずれかの組み合わせを必ず履修してください。

#### ② 教職に関する科目

教職に関する科目は開講されない年度があるので、履修については特に注意してください。詳細については、後日学生用掲示板にて別途掲示します。

また、教育人間科学部で開講する教職科目の履修を希望する場合は、学務第二係に事前に相談してください。教職に関する科目の単位は、卒業資格に関わる単位には含まれず、その成績もGPAに算定されません。

### ③ 特に必要なものとして文部科学省令で定める科目

特に必要なものとして文部科学省令で定める科目は、次の本学部開講科目で履修してください。「体育」は「健康スポーツ演習B」（2単位）、「外国語コミュニケーション」は本学部卒業資格にかかわる外国語科目、「情報機器の操作」は「経営情報論ⅠA」「経営情報論ⅡA」「経営情報論ⅠB」「経営情報論ⅡB」（各2単位）のいずれか1科目です。

## （3）教育実習

### ① 概要

教育実習は事前指導・本実習・事後指導からなり、以下の手順で実施します。なお、いずれの事項も必須です。

教育実習参加前年度	4月 「教育実習参加仮申込書」を提出。
	4月～ 教育実習の受け入れ先を自ら探し、受け入れを依頼。
	12月 教育実習終了者の「事後指導」を見学し、来年度教育実習参加者オリエンテーションに参加。
教育実習参加年度 (卒業年度)	4月 「事前指導」を受講。 「教育実習申込書」を提出。 「教育実習」を履修登録。
	6月または11月 本実習を実施（2週間）。 （終了後2週間以内に教育実習記録をまとめ、学務第二係に提出）
	12月 「事後指導」を受講。 （前日までに本実習レポートを学務第二係に提出）

### ② 履修要件

教育実習は卒業年次に、卒業見込みの者に限り履修できます。

卒業の前年度までに次の科目及び単位を修得していることが必要です。

専門教育科目	昼間主コース 48単位以上 夜間主コース 40単位以上 { 「職業指導」4単位を含む。 ゼミナールの単位は除く }
教職に関する科目	12単位（2010年度以降入学生） （商業科教育法4単位、生徒・進路指導論2単位を含む）

## （4）免許状授与申請

教育職員免許状取得希望者は、申請に必要な証明書を経営学務係に請求し、その証明書を持って自ら各都道府県教育委員会に免許状授与申請を行ってください。なお、申請方法、申請受付期間等の詳細については、申請先の教育委員会に照会してください。

## 7 学務関係諸手続き

### (1) 休学，退学，除籍

#### ① 休学

休学を希望する学生は、本学所定の「休学願」に必要事項を記載し、事由に応じた証明書類を添付して、社会科学系学務第二係に申請してください。休学には学長の許可を得なければなりません。

##### a. 休学の対象となる事由及び必要証明書類

休学の対象となる事由	必要証明書類
本人の疾病又は負傷	医師の診断書（様式随意）
本人の出産又は親として3歳未満の育児に従事	出産に関する医師の診断書（様式随意）
学資の支弁が困難	父母等の「理由書」（様式随意）及び事実を証明する書類
世帯主その他の死亡等により一時的に家業に従事	父母等の「理由書」（様式随意）及び事実を証明する書類
家族の看病又は介護	看病については、父母等の「理由書」（様式随意）及び医師の診断書（様式随意）、介護については父母等の「理由書」及び事実を証明する書類
勤務の都合	勤務先の証明書（様式随意）
語学研修及び語学研修に伴って特定の専門領域を研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>受け入れ先の学校の「入学許可書」（本紙を持参のこと。）</li> <li>本学所定の「計画書」（社会科学系学務第二係窓口で受領してください。）</li> </ul>
ワーキングホリデー	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビザ（コピー不可）</li> <li>ワーキングホリデー受入先の証明書，説明書又はパンフレット（コピー可）</li> <li>本学所定の「計画書」（社会科学系学務第二係窓口で受領してください。）</li> </ul>

b. 休学申請の時期は、原則として春学期または秋学期の開始する1ヶ月以上前までです。なお、学期の開始後に休学の事由が発生した場合は、速やかに証明書類（前述）を添付して社会科学系学務第二係に申請してください。

c. 休学中の学生が、休学期間の延長（1年を限度）を願い出る場合は、休学期間満了の1ヶ月前までに社会科学系学務第二係へ願い出てください。

d. 休学期間が満了しないうちに休学事由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができます。

e. 休学の許可を受けようとする場合は、休学期間開始前の学期の授業料を納入済みであることを必ず確認してください。

#### ② 退学

a. 退学を希望する学生は、本学所定の「退学届」を社会科学系学務第二係に提出してください。退学には学長の許可を得なければなりません。

b. 退学の許可を受けようとする場合は、あらかじめ、退学を希望する学期（春学期または秋学期）までの授業料を納入済みであることを必ず確認してください。

#### ③ 除籍

授業料を納付期限までに納めなかった者、在学期間を超えた者、休学期間を超えた者等は、除籍されます。

## (2) 住所変更等の届け出

下記の変更があった場合は、学務・国際部教務課窓口へ届け出てください。

変 更 事 項	届 け 出 る 文 書
本人の住所変更	学生住所変更届
本人の本籍の変更	本籍変更届
父母等連絡人の住所変更	父母等連絡人住所変更届
父母等連絡人の変更	父母等連絡人変更届
本人及び父母等の転籍，改姓，改名	本学所定の「転籍（改姓・改名）届」及び戸籍謄本または戸籍抄本

## (3) 学生証の携帯

学生証は常に携帯し、紛失した場合は早急に再発行の申請手続きをしてください。学生証の掲示がない場合、学期末試験が受験できないほか、本学部学生としてのサービスが受けられないので、十分注意してください。

なお、学生証発行の申請窓口及び再発行までに要する日数は下記のとおりです。

受 付 窓 口	発 行 日 数
学務・国際部教務課	7 日後 (土日・祝日を除く)

## (4) 在学中の証明書の発行

学生はあらかじめ提出先・必要な理由・必要部数を確認し、日程に余裕をもって申し込んでください。また、証明書の書類によって申し込み窓口が異なるので注意してください。なお、証明書発行の申込み並びに受領の際は必ず「学生証」を提示してください。

### ① 受付窓口、証明書の種類、発行日数（※土日・祝日を除いた日数）

受 付 窓 口 等	証 明 書 の 書 類		発 行 日 数
証明書自動発行機 (学生センター 経営学部事務棟(C棟) ロビー)	和 文	在学証明書	即 日
		成績証明書	即 日
		卒業見込証明書	即 日
		健康診断書	即 日
社 会 科 学 系 学 務 第 二 係	和 文	調 査 書	3 日後
	英 文	在学証明書	3 日後
		成績証明書 卒業見込証明書	7 日後 3 日後

※土日・祝日を除いた日数。

※ 申し込み、受領の際は直接窓口に来てください。郵便等には応じません。

### ② 申込方法

社会科学系学務第二係備え付けの「証明書交付願」及び封筒に必要な事項(氏名等)を記入の上、申し込んでください。

## (5) 卒業後の証明書の発行

下記の方法により、本人が社会科学系学務第二係に申し込んでください。本人以外には原則として交付しません。やむを得ず本人以外の者が代理で交付を希望する場合は、本人からの「委任状」(様式随意)及び代理人の身分を証明できるものを持参(または写しを同封)してください。詳細は大学ホームページ (<http://www.ynu.ac.jp/campus/procedure/certificate.html>) で確認してください。

### ① 郵送による申込方法

- a. 「証明書交付願書」返信用封筒(角型2号:住所・氏名を明記し、送料分の切手を貼付)、身分証明書の写しを社会科学系学務第二係宛に郵送してください。
- b. 申請書には下記の事項を記入してください(様式随意)。

入学年月及び卒業年月
所属学科名
氏名・フリガナ(英文証明書の場合はアルファベットでも記入のこと)
生年月日(英文証明書の場合は西暦で記入のこと)
必要な証明書の種類
必要部数
請求理由
提出先
連絡先住所・電話番号

### c. 証明書の交付までにかかる日数

- ア. 和文: 申請書受領の翌日から数えて3日後に発送(土日・祝日を除く)  
(大学院受験用の「調査書」については、指導教員が記入する事項等があるため、あらかじめ電話により社会科学系学務第二係へ連絡してください。)
- イ. 英文: 申請書受領の翌日から数えて7日後に発送(土日・祝日を除く)  
(「英文成績証明書」については、発行まで相当の日数を要するため、あらかじめ電話により社会科学系学務第二係へ連絡を取ってください)

### ② 窓口での申込方法

社会科学系学務第二係窓口へ直接本人が出向き、「証明書交付願」に必要事項を記入の上、申し込んでください。郵送での受取りを希望される場合は、返信用封筒(角型2号:住所・氏名を明記し、送料分の切手を貼付)を持参してください。

### ③ 証明書の種類、発行日数(※土日・休日を除いた日数)

発行対象者	証明書の種類	発行日数
卒業生・修了生	卒業・修了証明書(和文)	3日後
	卒業・修了証明書(英文)	7日後
	成績証明書(和文)	3日後
	成績証明書(英文)	7日後

## (6) 社会科学系学務第二係窓口受付時間帯

### ① 社会科学系学務第二係の窓口時間帯

月 曜 日 く	昼間：8時30分～12時45分	13時45分～17時00分
金 曜 日	夜間：17時00分～20時30分	【ただし授業期間中のみ】

- ※ 昼休み時間（12時45分～13時45分）は窓口が閉まりますので注意してください。
- ※ 休業期間中の窓口業務は16時30分までとなるので注意してください。
- ※ その他臨時に休業期間中と同じ扱いとすることがあるので掲示に注意してください。

## ② 提出物（レポート、卒業論文等）の提出時間帯

掲示等による特別の指示がない限り、以下のとおりです。なお、履修コースあるいは授業科目の開講時間帯により締切時間が異なるので注意してください。締切時間を過ぎたものについては、理由（レポートBOX前の混雑、プリンタ・コピー機の故障等）を問わず、社会科学系学務第二係では受理しません。

1限～4限の授業科目 （昼間主コース）	月曜日～金曜日 8時30分～ <u>16時30分</u>
5限～7限の授業科目 （夜間主コース）	月曜日～金曜日 8時30分～ <u>20時30分</u>

## (7) ゼミ室の使用

ゼミ室の鍵を借りるときは、学生証を必ず社会科学系学務第二係員に提出してください。鍵は学生証と引き換えで、貸し出します。なお、鍵の持ち出しあるいは返却の際には、窓口に用意されている「貸出簿」に必要事項を記入してください。

## (8) 進路状況届の提出（4年次生）

4年次生は、卒業論文提出時に、「進路状況届」（社会科学系学務第二係にて配布）を提出してください。なお、この「進路状況届」は進路状況の把握、学校基本調査等各種統計の資料（統計資料として利用し、個人が特定されることはありません）、在学生の就職活動支援のための情報提供（個人が特定されることはありません）のためだけに使用するものです。

## (9) 住所・勤務等届の提出（夜間主コースのみ）

夜間主コースの学生は、年度当初のオリエンテーション時に配布する「住所・勤務等届」を期日までに社会科学系学務第二係窓口へ提出してください。

## (10) 駐車許可証交付（夜間主コースのみ）

夜間主コースの学生は、次のいずれかに該当するものについては、学部審議の上、車での通学を許可し駐車許可証を交付します。

- ① 勤務の都合上、車を使用しなければ講義開始時刻に間に合わない。
- ② 自宅が遠く、授業終了後の帰宅の際に交通機関がなくなるため、車を使用しないと帰宅できない。
- ③ 身体に障害があり、車を使用しないと通学が困難である（この場合は、昼間主コースの学生を含む）。

申請書類の配布及び受付は、毎年4月上旬から中旬に行います。日程等の詳細については別途通知するので掲示に注意してください。

## (11) 経営学部コンタクト教員制度（担任教員制度）

経営学部では、特に新入生に対する就学ケアサポートを充実させるために、経営学部コンタクト教員制度（担任制）を設けています。特に新入生は、担任教員と「face to face」の関係を築いてください。

### 昼間主コース

- 1年～2年春学期終了まで …… 担任教員。教員名は、掲示板に掲示します。
- 2年秋学期～（ゼミ生） …… ゼミ教員
- （ゼミ外生） …… 教務厚生委員

### 夜間主コース

- 1年～2年まで …… 教務厚生委員
- 3年～（ゼミ生） …… ゼミ教員
- （ゼミ外生） …… 教務教務厚生委員長

## (12) 留学生支援制度

本学には、留学生の皆さんが充実した学生生活を送ることができるように、留学生のための様々な支援制度があります。

### ① チューター制度

1年生・2年生の留学生に、原則として日本人学生が1名ずつチューターとしてつき、勉学上、生活上の個別の課外指導を行い、学習効果の向上の手助けをします。

### ② 日本語・日本事情に関する指導

留学生担当教員の指導のもと、定期的集い、時事問題・日本の習慣など身近な話題についての意見交換を行いながら、日本語による表現能力を養います。なお、日本人学生がゲスト・スピーカーとして参加することもあります。日程は別途掲示します。（希望者のみの受講で、単位は与えられません）。

### ③ カウンセリング

留学生担当教員が、勉学上、生活上の個別相談に応じます。相談日（オフィス・アワー）は別途掲示します。

### ④ 留学生関連事項専門掲示板

留学生関連の連絡事項（奨学金・寮の案内・イベント等）を掲示する専用掲示板がありますので、経営学部の一般学生用掲示板、留学生センター掲示板と同じように、常時チェックしてください。

### ⑤ 各種イベント

留学生による日本語スピーチ・コンテストや実地見学旅行等、留学生対象の各種イベントがあります。

## (13) その他

① 学生に対する通知・諸連絡等は、全て「掲示」により行います。1日1回は必ず学生用掲示板、電子掲示板を見て確認するよう習慣づけてください。他人まかせではなく、自分の目で確認し、主体的かつ計画的に物事を進められるよう努めてください。

横浜国立大学ホームページの学生情報システム及び携帯電話からも、休講・補講等の情報を見ることができます。ただし連絡事項が全て見られるわけではないので注意してください。

大学のホームページ : <http://www.ynu.ac.jp/>

学生情報システム : <http://siss.jmk.ynu.ac.jp/p>

② 休講・成績確認・試験日程その他学務関係の事項について、電話やEメールでの問い合わせには一切応じません。

③ 「横浜国立大学学則」、「横浜国立大学経営学部規則」等は大学ホームページに掲載されています。これらの規則は大学生活に関する重要事項を規定していますので、適宜参照してください。

④ 学生に対する個別の連絡等を、Eメールで行うことがありますので、大学の在学生メールアドレス (@ynu.ac.jp) で確認してください。携帯電話や別のメールアドレスを使っている場合は、メールを転送する設定を行ってください。また、メールアドレスを変更したときは、必ず転送先を変更してください。

## 8 横浜国立大学経営学部規則

(平成16年4月1日 規則第701号)

最近改正 平成20年3月14日 規則第25号

### 第1章 学科、履修コース及び授業

- 第1条** 経営学部（以下「本学部」という。）に経営学科、会計・情報学科、経営システム科学科及び国際経営学科を置く。
- 第1条の2** 前条の各学科における授業は、昼夜開講制とし、各学科に教育上の区分として昼間主コース（主として昼間に授業を行うコースをいう。）及び経営学科に夜間主コース（主として夜間に授業を行うコースをいう。）を置く。
- 2 学生は、前項に規定する履修コースのいずれかに所属しなければならない。
- 第2条** 本学部の授業科目は、専門基礎科目及び専門科目並びに教養コア科目、情報リテラシー科目、基礎演習科目、外国語科目及び健康スポーツ科目とする。
- 2 授業は、講義、演習、実験、実習、実技及び研究指導とする。
- 3 学則第44条の規定に基づき、本学部における授業科目の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。
- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して、本学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 4 授業科目及び履修の方法に関する細目は、別に定める。
- 第3条** 学生は、年度ごとに履修しようとする授業科目を定め、所定期間内に経営学部長（以下「学部長」という。）に届出なければならない。
- 第4条** 学生は、第3年次から研究指導を受けなければならない。ただし、特別の理由があると認められた場合は、この限りでない。
- 第5条** 研究指導を受けない学生は、これに代えて所定の単位数に相当する授業科目を履修しなければならない。

### 第2章 入学

- 第6条** 学則第24条の規定による本学部入学者の選考は、学力検査及び出身学校長の調査書に基づいて行う。ただし、必要な場合は面接を行う。
- 第7条** 学則第27条第1項第2号から第7号までの規定による編入学者は、本学部と同等とみなすことができる学部等からの者に限り、前条の規定に準じて別に選考する。

### 第3章 認定

- 第8条** 学則第58条に規定する認定は、授業科目試験・別に定めるGPAの基準及び卒業論文試験とする。
- 第9条** 授業科目試験は、履修を届出、かつ授業時数の2分の1以上出席した授業科目について行う。
- 第10条** 授業科目試験は、その授業が終了する学期末に行う。ただし、担当教員が必要と認める場合は、臨時に行うことができる。
- 第11条** 卒業論文試験は、3年を超えて在学し、専門教育科目に関して別に定める単位数以上を修得し、かつGPAが2.0以上である者について行う。ただし、編入学等による者の在学年数については、この限りではない。
- 第12条** 卒業論文試験は、担当の指導教員が行う。ただし、研究指導を受けない学生は、学部長に願い出て特定の教員の審査を受けなければならない。
- 第13条** 授業科目試験の結果は、秀、優、良、可及び不可とし、所定のGP（GradePoint）を与える。
- 2 卒業論文試験の結果は、秀、優、良、可及び不可とし、可以上を合格とする。

**第14条** 学則第58条第3項ただし書に規定する者のうち特別の事情があると認められる場合には、授業科目試験及び卒業論文試験を特別な時期に行うことができる。

#### 第4章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講学生、内地留学生及び外国人留学生

**第14条の2** 学則第64条第1項の規定による科目等履修生として入学を許可されることのできる者は、本学部の選考において特定の授業科目を履修する能力を有すると認められる者とする。

**第15条** 学則第65条第1項の規定による研究生として入学を許可されることのできる者は、同条第2項に該当する者で本学部の選考において特定の専門事項についての研究能力を有すると認められる者とする。

**第16条** 学則第66条第1項の規定による聴講生として入学を許可されることのできる者は、同条第2項に規定する者で本学部の選考において特定の授業科目を聴講する能力を有すると認められる者とする。

**第17条** 科目等履修生、研究生及び聴講生の選考は、第6条の規定を準用する。

**第18条** 学則第67条の規定による特別聴講学生、同第68条の規定による内地留学生等、同第69条の規定による外国人留学生についての選考は、出願に要する書類の審査及び面接により行う。ただし、必要な場合には、学力検査を課するものとする。

#### 第5章 留学

**第19条** 学生が学則第55条の規定に基づき、大学（学部）間協定による留学の許可を受けようとするときは、必要書類を添えて学部長に願い出て、教授会の議を経なければならない。

2 学則第42条第3項の規定は、前項の規定により留学する場合にこれを準用する。

3 前2項に規定するもののほか、留学に関し必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則施行の際、平成16年3月31日に現に本学部に在籍する者については、なお従前の規則のとおりとする。

#### 附 則（平成17年1月13日規則第478号）

この規則は、平成17年1月13日から施行し、平成16年7月8日から適用する。

#### 附 則（平成18年3月9日規則第35号）

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 平成18年3月31日以前に本学部に入学者、在学者（以下「在学者」という。）及び平成18年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学及び転入学する者（以下「再入学者等」という。）に係る教養教育科目については、改正後の経営学部規則第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 本学部が必要と認めるときは、在学者及び再入学者等に改正後の経営学部規則第2条の規定に基づき平成18年度以降の入学者（再入学者等を除く。）のために開設される本学部の授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を、改正前の経営学部規則に基づく授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。

#### 附 則（平成19年3月15日規則第16号）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 平成19年3月31日に現に本学部に在学者（以下この項において「在学者」という。）及び平成19年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学及び転入学する者に係る授業科目試験の結果及び卒業論文試験の結果については、改正後の経営学部規則第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則（平成20年3月14日規則第25号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

## 9 教員一覧

専任教員

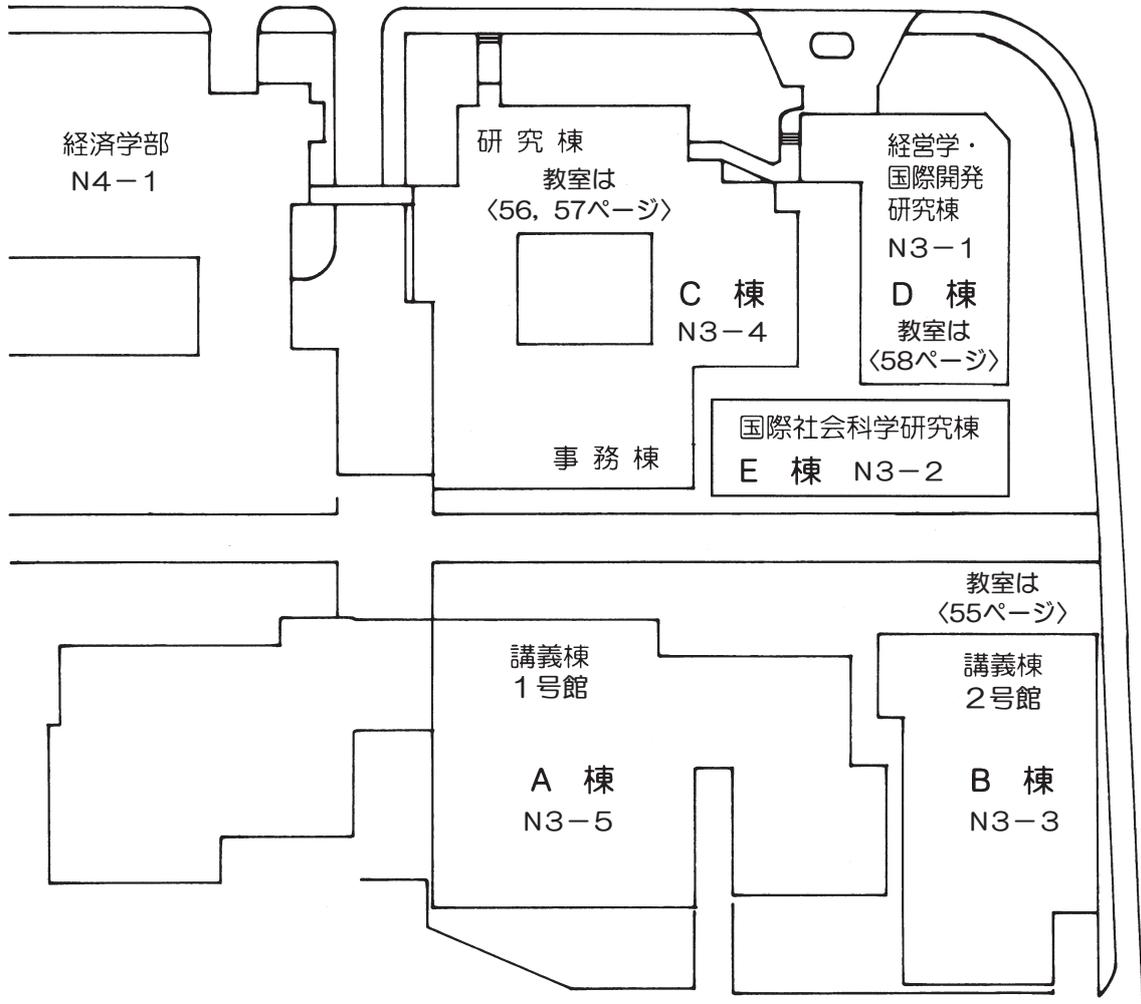
学 科	氏 名	主要担当科目	連 絡 先
経 営 学 科	小 川 慎 一	産業社会学Ⅰ・Ⅱ	sogawa@ynu.ac.jp
	貴 志 奈央子	産業組織論	kishi@ynu.ac.jp
	公 文 蔵 人	経営史	
	孫 穎	環境マネジメント論, 環境計画学	son-ei@ynu.ac.jp
	中 野 弘 美	現代コミュニケーション論, 経営の英語	h-nakano@ynu.ac.jp
	服 部 泰 宏	行動科学, グループ・ダイナミクス	y-hattori@ynu.ac.jp
	藤 森 立 男	産業心理学, 人間科学Ⅰ	fujimori@ynu.ac.jp
	二 神 枝 保	人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ	futagami@ynu.ac.jp
	ヘラー ダニエル	経営学総論Ⅰ・Ⅱ, 経営の英語	daheller@ynu.ac.jp
	三 戸 浩	企業と社会, 現代企業論	mito@ynu.ac.jp
	山 岡 徹	経営管理論Ⅰ・Ⅱ	yamaoka@ynu.ac.jp
	山 倉 健 嗣	組織間関係論, 経営の英語	yamakura@ynu.ac.jp
会 計 ・ 情 報 学 科	泉 宏 之	簿記原理Ⅰ	izumi-h@ynu.ac.jp
	大 雄 智	会計学原理Ⅰ・Ⅱ	otaka@ynu.ac.jp
	大 森 明	国民会計論Ⅰ・Ⅱ	omori-a@ynu.ac.jp
	木 村 晃 久	制度会計論, 会計学原理Ⅰ・Ⅱ	akimura@ynu.ac.jp
	齋 藤 真 哉	公会計論Ⅰ・Ⅱ	s-saito@ynu.ac.jp
	高 橋 賢	原価会計論	m-taka@ynu.ac.jp
	中 村 博 之	管理会計論Ⅰ・Ⅱ	nakamura@ynu.ac.jp
	原 俊 雄	簿記原理Ⅱ	haratosh@ynu.ac.jp
	前 山 政 之	会計監査論Ⅰ・Ⅱ	maeyama@ynu.ac.jp
	溝 口 周 二	戦略会計特論	shujim@ynu.ac.jp
	八 木 裕 之	生態会計論Ⅰ・Ⅱ	baum8@ynu.ac.jp
経 営 シ ス テ ム 学 科	安 部 浩 次	ビジネス・エコノミクス	abe@ynu.ac.jp
	伊 藤 有 希	財務論Ⅱ, 統計学Ⅰ-A	itoh@ynu.ac.jp
	井 上 徹	マイ・プロジェクトランチャー, 統計学Ⅱ-A	tedinoue@ynu.ac.jp
	鶴 見 裕 之	マーケティング戦略論	
	郭 沛 俊	意思決定論, 経営科学総論	guo@ynu.ac.jp
	佐 藤 亮	経営情報論ⅠA・ⅡA	rsato@ynu.ac.jp
	白 井 宏 明	ビジネスゲーム	shirai@shirai.org
	白 井 美由里	消費者行動論, データ解析論	shirai@ynu.ac.jp
	鈴 木 香 織	経営数学, 数学Ⅰ・Ⅱ	suzuki@ynu.ac.jp
	田名部 元 成	グループ思考システム論, 情報システム論	tanabu@ynu.ac.jp
	成 島 康 史	オペレーションズ・リサーチⅠ・Ⅱ	narushima@ynu.ac.jp
	松 井 美 樹	現代の物流経営, 生産システム論	ymatsui@ynu.ac.jp
	本 橋 永 至	マーケティング・サイエンス, 統計学Ⅱ-A	motohashi@ynu.ac.jp
	森 田 洋	ビジネス・エコノミクス, フィナンシャル・エコノミクス	h-morita@ynu.ac.jp
国 際 経 営 学 科	青 木 洋	比較経営史Ⅰ・Ⅱ	aoki@ynu.ac.jp
	アンドラディ 久美	日本の社会と文化	andrade@ynu.ac.jp
	五十嵐 則 夫	国際会計論Ⅰ・Ⅱ	
	清 田 耕 造	貿易論, 海外直接投資論	kiyota@ynu.ac.jp
	河 野 英 子	国際経営論Ⅰ・Ⅱ	hkono@ynu.ac.jp
	小 林 正 佳	言語コミュニケーション論, 経営の英語	kobamasa@ynu.ac.jp
	柴 田 裕 通	国際人事管理論Ⅰ・Ⅱ	
	ソーントン 武 アーサー	比較社会文化論Ⅰ・Ⅱ	thornton@ynu.ac.jp
	高 橋 正 彦	比較金融制度論Ⅰ・Ⅱ	matakaha@ynu.ac.jp
	竹 内 竜 介	国際経営論Ⅰ・Ⅱ	r-take@ynu.ac.jp
	曹 斗 燮	比較経営論Ⅰ・Ⅱ	dscho@ynu.ac.jp
	真 鍋 誠 司	比較技術経営論Ⅰ・Ⅱ	manabe-s@ynu.ac.jp
	谷 地 弘 安	国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ	yachi777@ynu.ac.jp
	山 口 修	国際財務論Ⅰ・Ⅱ	osamu317@ynu.ac.jp

非常勤講師

氏 名	主要担当科目	連 絡 先
穴 山 朝 子	歴史Ⅰ・Ⅱ	anayama.asako@ocha.ac.jp
伊 藤 淳 司	マーケティング・プラクティス	junji@etic.or.jp
伊 藤 高 雄	国語・国文学Ⅰ・Ⅱ	takaito@ynu.ac.jp
小野島 康 雄	哲学Ⅰ・Ⅱ	
河 野 真 貴 子	法と人間	
掛 川 啓 子	英語演習	
君 島 美 葵 子	管理会計論Ⅰ・Ⅱ	
木 村 聡 雄	英語1-1-Ⅰ・1-1-Ⅱ, 2-1-Ⅰ・2-1-Ⅱ	
久 野 新	経済Ⅰ・Ⅱ	
樽 沼 秀 夫	教育実習	
小 嶋 正 敏	人間科学Ⅱ	
小 林 由 里 子	社会学Ⅰ・Ⅱ	
小 山 巖 也	経営学原理Ⅰ・Ⅱ	
坂 原 樹 麗	統計学Ⅰ-B・Ⅱ-B	quirit.ynu@gmail.com
渋谷 一 夫	物理学Ⅰ・Ⅱ	
杉 村 倫 代	経営情報論ⅠB・ⅡB	
杉 山 倫 也	教育基礎論(人間形成論)	sugiyama@yokohama-art.ac.jp
滝 沢 哲 夫	インターネット・ビジネス・プランニング	
田 中 洋 子	心理学	
田 村 淑	法と人間	tamshuku@yahoo.co.jp
田 村 淳 也	法学概論	
千 島 昭 宏	コンピュータで学ぶ統計学A・B	a-cs@ynu.ac.jp
長 友 昭	民法Ⅰ・Ⅱ	haochi@c-off.com
堤 理 英	英語演習	rietsutsumi@hotmail.com
津 田 千 悦 子	英語1-2-Ⅰ・1-2-Ⅱ, 2-2-Ⅰ・2-2-Ⅱ	
辻 裕 之	統計学Ⅰ-C・Ⅱ-C	hiroyuki.tsuji@gmail.com
寺 田 麻 佑	法学概論	
飛 田 綾 子	社会科学概論Ⅰ・Ⅱ	
西 村 将 樹	企業組織法Ⅰ・Ⅱ	
野 田 由 美 意	美学及び美術史Ⅰ・Ⅱ	
林 戸 孝 行	企業取引法	
平 岡 敦	フランス語1-Ⅰ・1-Ⅱ, 2-Ⅰ・2-Ⅱ	hira-oka@s5.dion.ne.jp
平 野 嘉 秋	税務会計論Ⅰ・Ⅱ	
福 田 徹	証券市場論	fukuda@isri.or.jp
松 井 直 之	法学, 日本国憲法	
本 橋 右 京	ドイツ語1-Ⅰ・1-Ⅱ, 2-Ⅰ・2-Ⅱ	
矢ヶ部 重 隆	化学Ⅰ・Ⅱ	
山 口 貞 明	論理・倫理Ⅰ・Ⅱ	

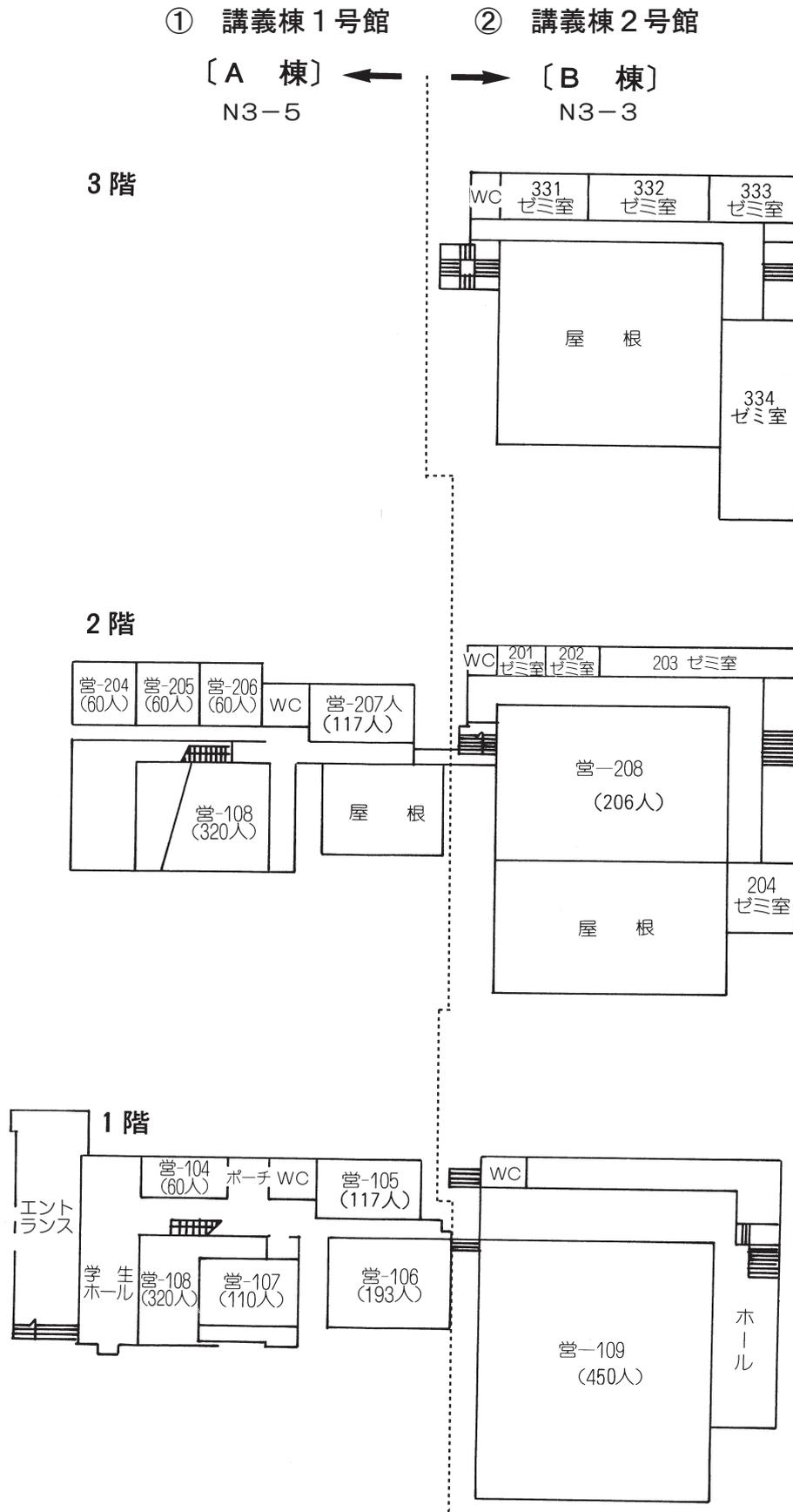
# 10 経営学部建物及び教室配置図

## 経営学部建物配置図



# 経営学部教室配置図

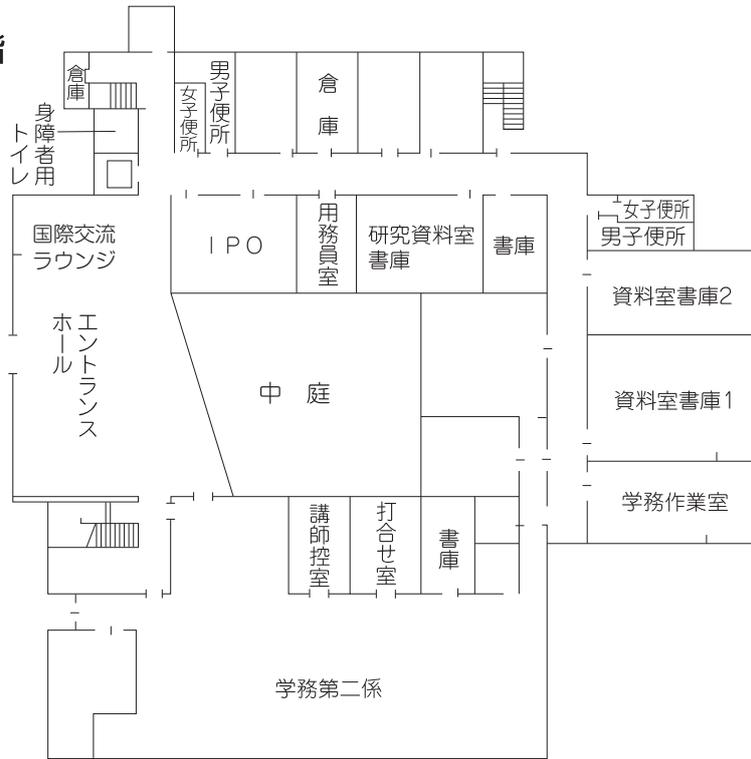
## (1) 経営学部講義棟 (1～3階)



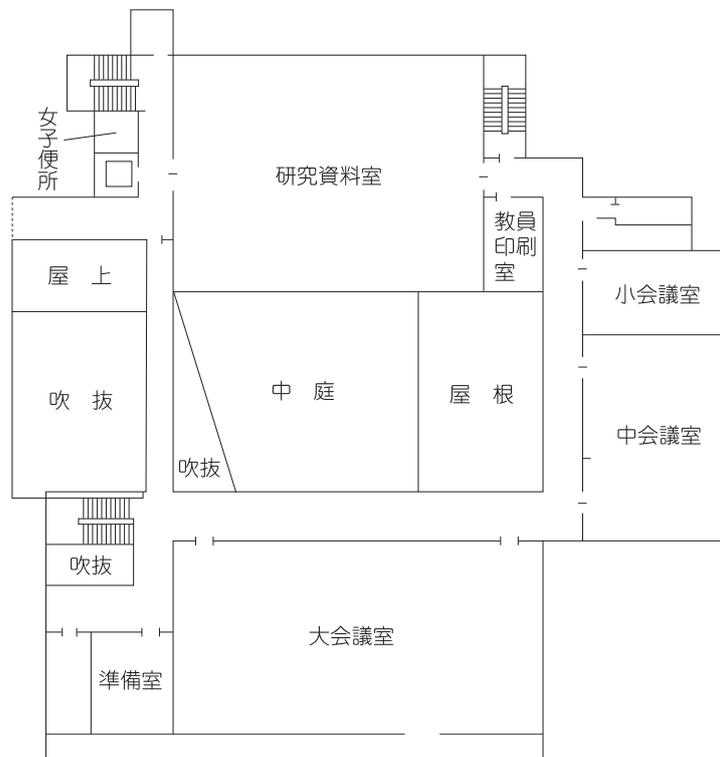
(2) 経営学部事務室等〔C棟〕(1～5階)

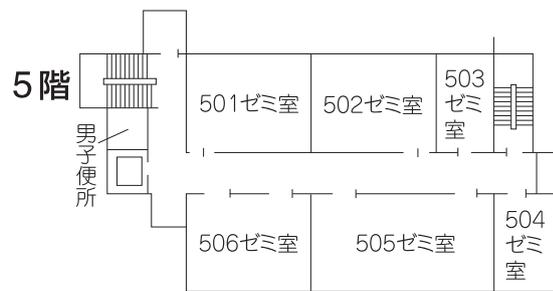
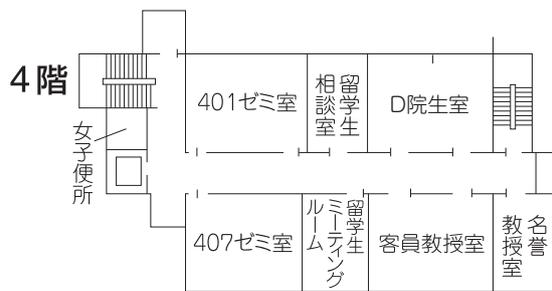
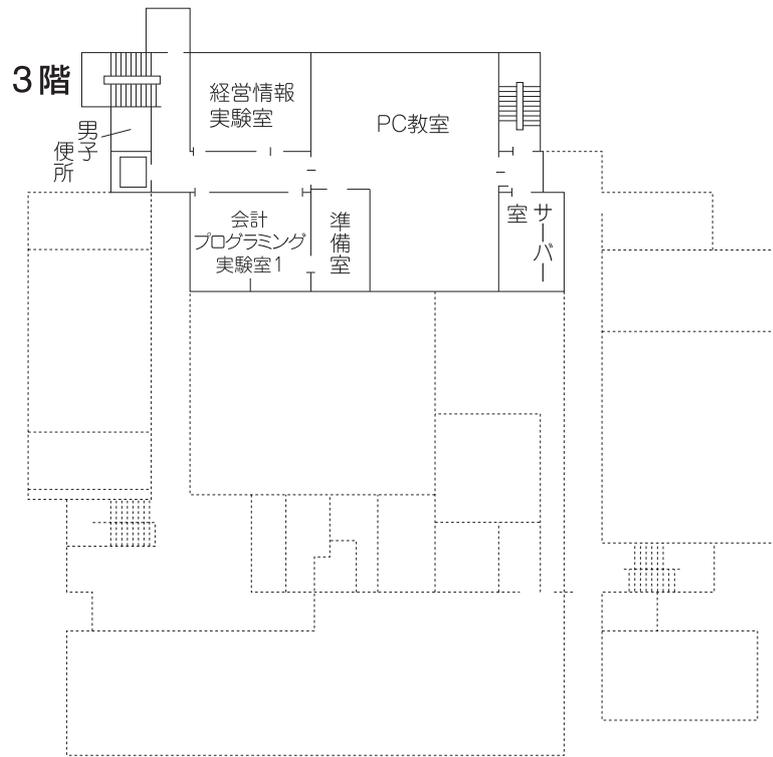
N3-4

1階



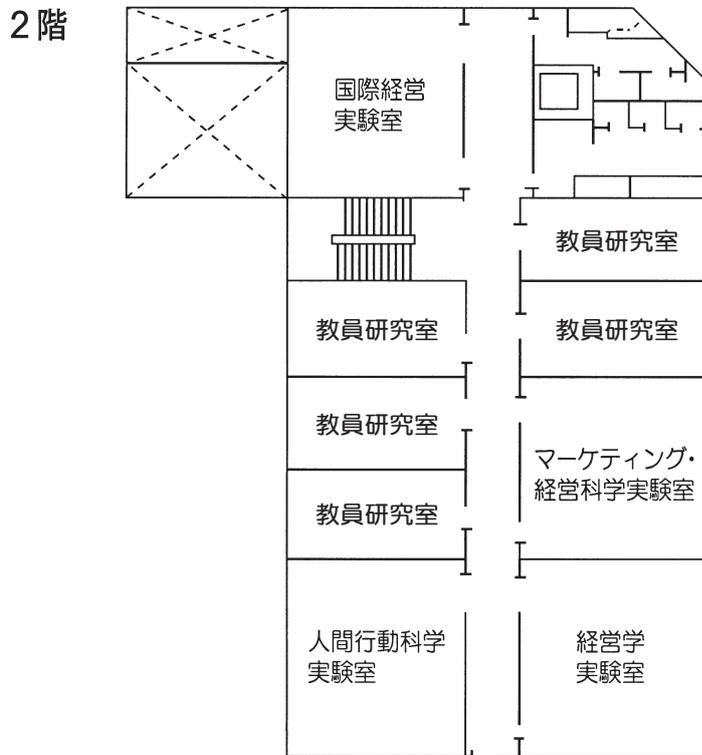
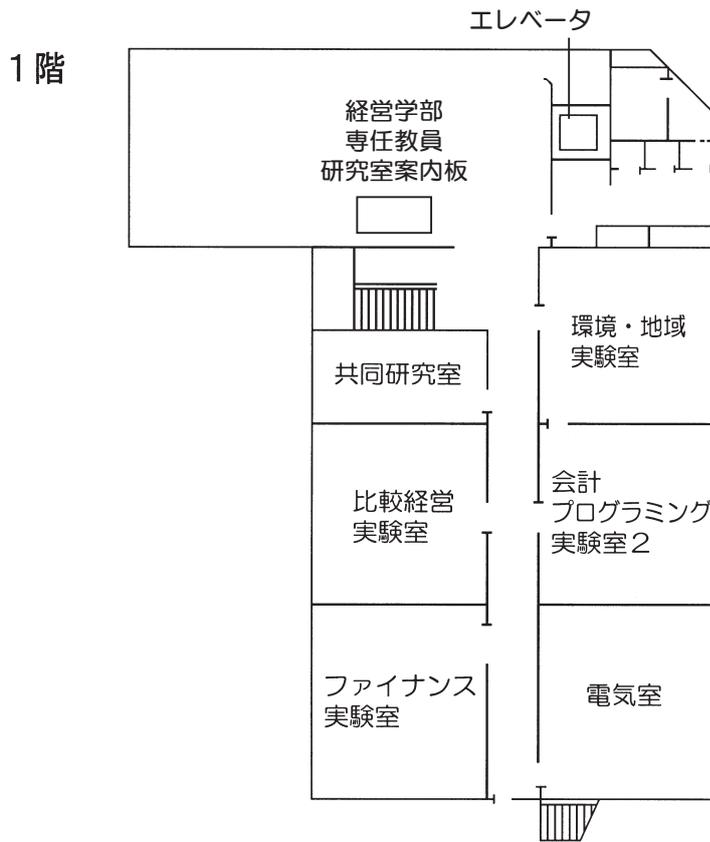
2階





(3) 経営学・国際開発研究棟〔D棟〕(1～2階)

N3-1



※「情報教育教室」「TSS端末室」は  
経営学・国際開発研究棟〔D棟〕3階  
※「研究推進室」は経営学・国際開発研  
究棟〔D棟〕4階